

「月待ち町のストリッパー」

作 瀧口 敦子

X

Ann.Brigitte
By Atsuko Takiguchi

現在と20年前の「月待ち町」

ローズが椅子に座り眠っている。

マリーの声 ゆかり！ゆかり！ねえ、ちょっと！

ローズは目を覚ます。

マリーの声 ゆかり、ちょっと聞いてよ。

ゆかりの声 どうしたのよ？

マリーとゆかりが話しながら登場

マリー どうしよう！

ゆかり だから、何なのよ（笑）

マリー あの、そのね。

ゆかり 何、気持ち悪い。（笑）

マリー あたしさ、あのね、。

ランの声 ゆかり姉さん！ねえ、ちょっと聞いてくださいよ！

ランが登場、そのあと、笑いながら、アコが登場

マリー ちょっと、何なのよ、あたしが話そうとしてたのに。

ゆかり なんだか、忙しいね、今日は（笑）

ラン あ、マリー姉さん、おはようございます。

アコ おはようございます、ねえさん。

マリー はい、おはよう。

ゆかり おはよう。

ラン ちょっと聞いてくださいよ、あたしの踊りの練習を見て、この人ったら笑うんですよ！

アコ だって、面白いんだもの、あなたの踊り。なんか、動物みたいなんだもん。

ラン ひどいよねえ、一生懸命稽古してんのにさ。

マリー ダメよ、ランの事をからかっちゃ。（笑）

ゆかり そうそう、あんたたちだって、まだ見習いなんだから、一生懸命稽古しなきゃ。

アコ だけど、あの踊りは、（笑）

踊りを真似するアコ

マリー ちょっと、やめなさい（笑）

ラン あたしは、東京の浅草の踊り子さんたちの話をお客さんから聞いて、それで。

アコ え？浅草の踊り子さん？

ラン なんかさ、聞いてたら、ドキドキしちゃって。

マリー 浅草の踊り子さんかあ、素敵でしょうね。

アコ でも、「月待ち座」が一番です！

ゆかり そう、そうだよ。「月待ち座」が一番よ。

ラン 勿論です、「月待ち座」のローズさんが日本一ですよ。でも、浅草の踊りさんも見てみたい。

マリー いつか、皆で観に行こうね！

アコ はい！必ず、いつか皆で！

ロツペイ登場

ロツペイ さあ、さあ、いらっしやい。月待ち座のトップ、ローズが踊ります月明かりのショー。

さあさあ、見なきゃ損、他では見られないこの月待ち町だけのストリップショー。

眠っていたローズはゆっくりと立ち上がり、それと同時に全員ローズの周りに集まる。

全員 「月待ち町のストリップパー」

サイレンの音

ローズ・ロツペイ・ラン・アコは去る。

ゆかり 火事よ！火事よ！みんな、寝ちゃってるの、どうしよう、火が！

マリー ゆかり、ここで待ってて、あたしが皆を助けに行く！

ゆかり だめ、あんたは、逃げて！ここから、逃げるの！

マリー 何を言ってるの？

ゆかり 早く、行くんだよ、東京に！今！

マリー そんな事できないよ！

ゆかり 早く！（押し倒す）あんたは、生きて！お願い！

マリー え！

ゆかり 行くのよ！マリー！行きなさい！あたしは、大丈夫。

マリー そんな事できる訳ないでしょう！

ゆかり 出て行くの、ここから！

マリー ゆかり。

見つめ合う二人。

ゆかり ローズさんを、ローズさんを捨てるのよ！

マリーは、よろよると立ち上がる。

ゆかり あたしは、大丈夫。絶対に死なないから。

マリーは頷く。そして、ゆかりを抱きしめる。

ゆかり 生きてね、マリー！生きるのよ！

ゆかりは去る

マリー ゆかり！

サイレンの音 現在のマリー

マリー 月が見てる。冷たくあたしを見てる。あたしは、今日、すべてを捨てました。
月夜にあたし、すべてを捨てました。

秋山登場

秋山 (走りながら) わたしは走る、走る、月がわたしを見てる、見てる。

同じ月を見つめ、二人は視線を合わせる。
20年前の二人。

マリー 秋山さん。

秋山 今夜のマリーさんは本当に素敵でした、ほ、ほほ、ほんとに！

マリー 山さん、「ほ」が多い。(笑)

秋山 ほ、ほ、ほ、！すいません、ほ、ほ、ほ。

マリー 嬉しいです、ホントに。

秋山 マリーさんと一緒にいると緊張しちゃって。

マリー (秋山の手を握る) あなたに、会えて嬉しいです。きゃっ(笑) 恥ずかしい。

秋山 はは、恥ずかしいですね(笑)

マリー また、こうして会ってくれますか？

秋山 勿論です、ああ、東京に帰りたくないな。

ローズの声マリー？どこ？マリー、あたしの下着洗ってくれたの？

マリー あ、母さん、すぐ行きます！(秋山へ) また、明日も会いに来て下さいね！

秋山 勿論です！絶対に会いに行きます！

マリーは去る。

秋山は、ふと月を見上げる。現在の秋山に戻る。

「月待ち町の公園」夕刻

ロッペイが看板を持って、登場し、店を開く。

秋山は不思議そうに、ロッペイを見つめる。ロッペイはバックの中からコップや酒を取り出す。

ナミ登場

ナミ ロッペイさん、今日はね、お煎餅が安かったから、おツمامみにしようと思って買ってきました。

秋山は不思議そうにナミを見つめる。

ロツペイ ありがとうさん、ナミちゃんは、いつも気がきくね。

ナミ そんな、褒めないでくださいよ(笑)

ロツペイ (秋山に気づく) なんだ？

ナミも秋山を見つめる。

ナミ この町の人じゃないよね。

ロツペイ 観光客なんて殆ど来ないしな。

ナミ なんだろう、じっと見てる、気持ち悪いよ、ロツペイさん。

ロツペイ 目を合わせちゃ、いけない。

ナミ はい。

秋山はロツペイに近づく。

ロツペイ え？(物凄く近くに居る秋山に気づく) うわっ！なんだ、近いぞ！

ナミ きゃっ、怖い！

秋山 ロツペイさん？あなた、ロツペイさんですか？

ナミ 喋った！

秋山 わたしですよ、覚えてませんか？20年前、ほら、「月待ち座」で、ほら！

ロツペイ 知らねえな、「月待ち座」なんて。てか、あんた、ここ、店だからね。店の境界線かるく越えてっから。

秋山 店？え？

ロツペイ 目に見えてないけど、店なの、ここ。

ナミ そう、ここ公園だけど、ここはロツペイさんの店なの。店の名前は、「ロツペイちゃん」

秋山 え？でも、ここ、外。

ロツペイ 屋台の進化系だから、うち。

ナミ そう、屋台の進化系なの。

秋山 ええっ、分からないな、わたしには公園としか、。

ロツペイ 飲んでっ。はい、どうぞ。(コップにウイスキーを注ぐ)

秋山 いや、わたしは、そんなに飲めないんで。

ナミ (秋山にコップを渡す) はい、500円。

秋山 は、はい。

ナミ ありがとうございます！

秋山 あっ！

ロツペイ 何々？やめてよ、大声だすの。

秋山 だから、あなたロツペイさんでしょ！

ロツペイ だから、ロツペイだけど、ロツペイはあんたのこと知らないよ。

秋山 20年前だからな、ああ、わたしも老けましたよね。分からなくても当然です。

ロツペイ あんた、20年前、この町に来たの？

秋山 はい、仕事で。約半年程いました。わたし、建設会社で設計をやっておりましてね。

ナミ 20年前か、あたしが生まれたころかな。

秋山 ええっ、いやあ、そうか、わたしにもあなた位の娘がいます。

ロツペイ いちいち、リアクション大袈裟だよ、あんた。

ナミ へえ、娘さんと同年なんだ、今、何してるんですか？

秋山 大学生です、文学が好きで文学部に通ってます。本ばかり読んで、はは、恋人もないんじゃないかな。

ああ、圭！すまん、我儘な父で！

ロツペイ あんた、頭がおかしいよ。(笑)

秋山 いやあ、スイマセン。アオイ春をもう一度なんですよ。

ナミ え？アオイ春？

ロツペイ ナミちゃん、まともに聞いちゃだめ(笑)

ナミ ロツペイさん、なんか、楽しそうだね。

ロツペイ え？

ナミ だって、久しぶりに笑ってる。

ロツペイ いや、いやそんな事ないよ。

ナミ そうかな、でも時々、無口になっちゃうし。

ロツペイ そんな事ないよ、饒舌ですよ、オイラ(笑) ナミちゃんが来てくれてから、楽しくなりましたよ。

ナミ だと、良いんだけど。

秋山 二人は、歳の離れたカップルなんですか？

ロツペイ おっさん、酔ったか、この野郎！

ナミ あたしは、月風町にいたの。

秋山 ああ、ここより榮えている隣町ですよ。

ナミ その町のスナックで働いてて。で、ロツペイさんに助けてもらったの。

秋山 そうですか。

ナミ あたしは、家出して、あの町に行って働いた。お金を貯めて、自由になろうと思った。だけどさ、何処に行っても、結局灰色の世界で、そこから抜け出せないんだよね。そんな時さ、お店で、急に悲しくなっちゃって、外でわんわん泣いてたら、通りかかったロツペイさんが、助けてくれたの。

ロツペイ ナミちゃん、見ず知らずのおっさんにそんな話しをしなくてもいいよ。

ナミ 月が綺麗。月が綺麗だからかな、だから話したくなかったのかな。月。

秋山 はい？

ナミ 月、、、あ、ミツキちゃん、どうしてるかな。

ロツペイ ミツキちゃん？

ナミ ほら、スナックで仲良かったミツキちゃん。元気かな。

ロツペイ ああ、お母さんを探してるって子か。

ナミ そう、本当のお母さんに会いたいって、それで、いなくなっちゃって。

秋山 ミツキちゃん？

ロツペイ(秋山を無視して) 今度、また月風町まで行って探してみような、ナミちゃん。

ナミ はい。

秋山 いかん、やっぱりいかん！

ロツペイ 急に何よ、しんどいんだよ、おっさん、黙ってなよ。

秋山 こんな、可愛い子が苦労して。一体、何なんだ、格差を作っちゃいかん！

ロツペイ この町も、深刻だよ。

秋山 この町はもう、住んでいる人は殆どいないんですか？

ロツペイ そうだよ、働き口がなくて、皆だんどん、都会へ行ってしまうって、今じゃ、

無人の町だよ。俺も、ここでこんな店やってるけど、こんなんじゃ勿論食えないし、

昼は、月風町まで行って缶詰工場で働いてる。

ナミ 昔は、ストリップ小屋で栄えてたって、おばあちゃんが言った。観光客も沢山いたって。

都会からの土地買収とかいろんな話がでて、でも、その話も立ち消えて、今じゃゴーストタウン。

秋山 そうなんですよ、わたしが仕事でこの町に来たのも、ここを観光地として複合施設を建設する予定が

あったからなんです。でも、あまりにも小さい町で、経済的に効果も出ないんじゃないかということ

で話は立ち消えてしまったんですよ。

ナミ でも、あたしはこの町の事は知らないけど、すごく綺麗な町で好きだな。森の中にある小さな町。

とくに、「月」の晩は、最高に綺麗。さやさやと揺れる木々たちの葉に光る月の光。

秋山 そう、「月」の光。つ、あ、月明かりの下で踊るストリップパー。あ、ロツペイさんですよね！

ロツペイ だから、違うって、しつこいな、あんたも！

ロツペイの記憶の中のゆかり登場

ゆかりの声 ロツペイちゃん！

ゆかり ロツペイちゃん、今夜のあたしの踊り、どうだった？

ゆかり ああ、でも、やっぱりローズさんのようには踊れてないよねえ。

ロツペイはゆかりを見つめる。

ゆかり いつか、ローズさんのように「月明かり」の下で踊ってみたいな。ね、できるかな？

ね、ロツペイちゃん、どう思う？できるかな。

ロツペイ あ。

ゆかり ねえ、いつか二人で「月待ち座」のようなストリップ小屋ができたらいいいねえ。

ね、ロツペイちゃん。そして、二人の子供を産んで、育てるの。で、親子二代でストリップパー。

愛を、愛を伝えるストリップパー。ねえ、ロツペイちゃん、聞いている？

ロツペイ あ、聞いている。

ゆかり 良かった。ロツペイちゃん、好きよ。あたし、ロツペイちゃんが好き。

ゆかり去る。

ナミ ロツペイさん？（ナミはロツペイの頬を指で押す）

ロツペイ ゆかりちゃん。

ナミ ゆかりちゃん？

ロツペイ あ、あ、なんでもない、今夜も客は来ないから早仕舞いして、ローズさんと一緒に夕飯を食べよう

ナミ うん、そうしよう。

秋山 え？わたし、居ますけど。え？ローズ？

ロツペイは秋山を無視して、片付け始める。

ナミ じゃ、おじさん、また。

ロッペイは無言で荷物を持ち、去ろうとする。

秋山 え、ローズって、もしかして、「月待ち町のストリッパー」

ロッペイ あんたね、何が目的でこの町に来たかは知らないけど、殆ど住んでる人もいない、だから、隣町にでも行って早く帰った方がいい。

秋山 でも、わたしは、会いたい人がいるんです。

ナミ 会いたい人？

ロッペイ ナミちゃん、この人狂ってんだよ、相手にしちゃだめ。ほら、早く。

ナミ あ、はい。

二人は去ろうとする。

秋山 マリーさん、マリーさんを探してるんです！

ロッペイは振り向くが、何も言わず去る。

ナミ じゃ、さようなら、おじさん。

ナミも去る。

秋山は、再びベンチに座る。(ベンチでもイスでも何でも可)

ローズ登場。月を見つめている。

ローズ 今夜も、月が綺麗ね。

アコとランが登場する(幽霊)

秋山は地図を出し見始める。

ローズ ああ、聞こえるわ、拍手、あたしの名前を呼ぶ声、喜びに満ちた観客の声。

ラン どうやったたら、ローズさんのように踊れるんだろう。

アコ あんたは、無理よ。(笑)

ラン あんたって、本当に意地が悪いよね。

アコ 可愛いからな、あたし。

ラン うわー、自分で言うんだ、やだねー

ローズ あら、また、あなたたち？

ラン うるさくて、ごめんなさい。

ラン アコが意地の悪いことを言うからです！ごめんなさい、ローズさん。

ローズ あなたたち、あたしのことをローズさんって呼ぶの、なぜ？

アコ なぜって、だって、ねえ。

ラン 月待ち座のトップ、ローズ様だからですよ。

ローズ あたしの名前はローズって言うの？トップってなあに？

アコ ローズさんは、日本で一番のストリッパーです。

ローズ あたしが、ストリッパー？

二人はローズの踊りの真似をする。

ローズ あら、素敵ね、あなたたち。

アコ やったー、ローズさんに褒められた！

ラン ローズさん、でも、あたし、どうしても色気がなくて。

アコ 仕方ない、それは、うん。

ラン あのね？

ローズ ううん、あるわよ、色気。

ラン いや、ないように感じます（笑）

ローズ 色気ってね、自然に出て来るものなの。意識しても、ダメね。

アコ その通りです！

ラン あんたは、黙ってて。

ローズ そう言えば、いたわね、昔。思い出したわ。とつても色気があって、いい匂いがしたわ、あの人。

ラン あの？

ローズ そう、あの人。きつと、ストリッパーだったのね。綺麗な人だった、だけどお酒を飲むと、怖くなるの。あたし、そつと、見たの。そう。あの人の踊りをそつとね。

あの人が好きだったけど、あたしには優しくしてくれなかったの。あの人は「かあさん」って名前だった。

ランとアコは去る。

ローズは月を見上げ去る。

秋山は地図をリュックにしまい、立ち上がり去る。

ロッセイとナミが登場

20年前

マリイの声 ね、ゆかり、ゆかり、どこ？

マリイが登場する。

マリイ ゆかり、かくれんぼする歳じゃないよ、どこよ？

ゆかりが登場する。

ゆかり 洗濯してたのよ、何よ、大声だして。

マリイ 好きな人が、できたの！

ゆかり え？何？何て言ったの。

マリイ 好きな人ができたの。

ゆかり ええ？

マリ― 東京から来ている秋山さん。

ゆかり 秋山さん？

マリ― 東京から研修で来てて、ほら1週間前に、見に来てくれたお客さん。

ゆかり あく、この前の団体さん。でも、会ったばかりじゃない。そんなすぐに好きになれるの？

マリ― 恋するのに時間なんか、関係ないよ。

ゆかり 何、名言吐いてんのよ、こんな真昼間から。(笑)

ローズが登場。二人に声をかけようとするが、立ち止まり二人の話を聞いている。

ゆかり で、まさか、あんた！

マリ― 何よ。

ゆかり まさか、もう。

マリ―は頷く。

ゆかり 駄目だよ、遊ばれてるだけだよ、絶対に。

マリ― そんな事ないよ。秋山さんは、真面目だし。

ゆかり 真面目こそ、信用ならないよ。ましてや、あたしらの知らない遠い都会に住む男なんてさ。

マリ― あんたの言うことも、分かる。だけどね、秋山さんは本当に信じられるの。

ゆかり 何を？ 都会ってね、嘘つきが集まるところだって死んだおばあちゃんが言った。

マリ― 嘘をつく人間は、なにも都会の人間だけじゃないよ。

ゆかり この町に嘘をつく人なんかいないじゃない。

マリ― いる。

ゆかり 誰よ。

マリ― 母さん。

ゆかり それは。

マリ― あたしを愛していると言う「嘘」をついてるじゃない。

ゆかり 嘘なんかじゃないよ、マリ―。もうその話はやめようよ。

マリ― かあさんは、嘘つきよ。あたしに触れる手、あたしを見る目、あたしには分かる。

あたしの事なんか、愛してない。あの人が愛しているのは、「自分よ」！

ローズは去る。

ゆかり 落ち着いてよ、マリ―。

マリ― あの人は、ストリッパーなの。母親じゃなくて。ストリッパーなの。

ゆかり でも、あんたを育てるためにストリッパーになったんじゃない、ローズさんは。

マリ― あたしは、頼んでない。父親だって知らない、そう、母親もないも同然よ。

ゆかり そんな事を言うもんじゃないよ。

マリ― あたしだって、ストリッパーなんかやりたくないよ。普通の女として、生きてみたい。

ゆかり マリ―、あんたストリッパーを馬鹿にしてるよ。

マリ― 馬鹿になんかしてない。けど、あたしには向いてない。

ゆかり あたしは、ストリッパーが好きだよ。いつか、ローズさんのようになりたいって、いつも思ってる。

マリー ストリッパーとしてのあの人は認める。だけど、母親としては失格。
あたしに感じとられないように、あたしを愛してないの、あの人は。

ランとアコが登場

ラン 姉さんたち、どうしたんですか？

アコ ゆかり姉さん、洗濯も終わってます。

ゆかり ありがとうございます。

ラン 喧嘩してたんですか？姉さんたち。

アコ あの、洗濯終わってます。

ラン ちょっと、あんたってどうして気が利かないのよ！

マリー、ゆかりは笑う。

アコ だって、洗濯は終わってるんだもの。

ゆかり そうだよね、本当の事だもんね。

マリー ありがとう、アコ

アコ なんなら、あたし洗濯物干してきましようか？

ラン なんか、上手いよね、あんたって。

アコ 何が？

ラン 何て言うかき、とにかく上手いんだよ。

アコ じゃ、ランだって、洗濯物干してくればいいじゃない。

ラン そういう事じゃなくてさ。

マリー あんたたち、いいコンビだね。アコとランはね。あんたたちを見ると、気持ちがほっとするよ。

ゆかり そうだね。

ロツペイの声 みんな、昼飯の時間ですよ

マリー あんたのホツとするのは、ロツペイさんでしょ(笑)

ラン 仲いいですよね、ゆかりさんとロツペイさん。

アコ そうそう、妬けちゃうよ。

ラン あんた、そんな難しい言葉を知ってたんだ。

アコ あたしだって、それ位は知ってるよ！もう、馬鹿にすんな、ラン！

皆笑う。ロツペイが登場する。

ロツペイ お嬢さん方、楽しそうだねえ。

ラン 今、ロツペイさんの話をしてたんだ。

ロツペイ オイラのこと？何？何、話してたのよ

アコ ロツペイさんの声がエッチでいいって。

ゆかり アコ、そんな事言っていないでしょ。

ラン そうだよ、ホント、ズれてるんだから、アコは。

ロツペイ おいらの声がエッチだなんて、なんかテレルな。

ゆかり 真に受けんな、バカ。

ロツペイ ごめんなさい、ゆかりちゃん。
マリー ああ、ロツペイちゃんは、ゆかりにぞっこんだね。

ロツペイ はい、そうです！

ラン ヒューヒュー、熱いぞ、熱い！

アコ キヤー

ロツペイ 本気ッスから、おいら。

ラン うわ、熱い、熱い！

アコ あたしも言われてみたい、未来の恋人に！

(昭和歌謡↓明るい歌がいい) マリーが歌いだし、みなで歌いだす。

自転車の音。タマコが登場

タマコ あら、素敵な歌！みんな、歌がうまいのねえ(拍手をする。)

みな、一斉に歌をやめる。

ラン 嫌な奴が登場。

アコ ほんと、嫌な奴が来た。

タマコ あら、何？何？あたしのこと？相愛ならず、貧乏くさいわね、ニッ。

マリー それなら、来なきやいいんじゃないですか？

ラン そうだ、そうだ！

アコ うわ、厚化粧の匂いプンプンしてて、気持ち悪い

ラン お、直球(笑)

アコ だって、ホントに臭いんだもん。

タマコ あんたたちに、この高価な化粧の価値なんか分かりっこないわ(笑)

ロツペイ そろそろ、お嬢たちはお昼ご飯を召し上がるお時間なので、帰ってもらえますか？

タマコ あたしだって、好きで来てるわけじゃないのよ。

マリー 用は何ですか？

タマコ ローズさん、いらっしやる？

ゆかり 今、休んでます。

タマコ あら、うちのパパの要件を伝えにきたのにお昼寝中？もう、やだ、此処電話がないから困るわ

マリー なんですか、金城さんの用って。母には、あたしから伝えておきますから。

タマコ 決まってるじゃない、早くお金を返していただきたいの。でなきや、ここから早くさよならしていただ

きたいの。町全体を失くすことも考えてるんだから。

ラン 失くすって何をですか？

タマコ この町よ。ほら、開発の会社の人たちも来てるでしょ。

マリー 開発の人って。

タマコ 先週、あんたたちの「月待ち座」を見に来た東京のひと。

マリー 開発の人って、秋山さん。

ゆかり マリー、大丈夫？

マリー 大丈夫。とにかく、タマコさん、帰ってもらえませんか？

タマコ あんたの母さんに話しをするまで、帰らないわ。

ロツペイ とにかく、今はお帰り下さい。

タマコ なんなのよ、ちよっと。

ローズが登場

ローズ マリー、あたしの衣装どこに置いたの？見つからないのよ。ま、タマコさん、いついらしたの？
タマコ ええ、今ですわ。こんにちは、ローズさん。

ローズ ごめんなさい、気がつかなくて。

タマコ ここ、電話がないので、わざわざ月風町からジデンシヤ飛ばしてきたのに。それからローズさん、この人たちの事ちゃんと教育なさってるの？まったく、失礼な人たちなんだから。

ローズ 申し訳ございません、タマコさん。

ゆかり ローズさんが謝ることないです。

ローズ ゆかりちゃん、いいの、あなたは黙ってなさい。

マリー 母さん、金城さんからお金を借りてるって本当なの？

ローズ そうなの、借りてるの、ちよつぷり。

タマコ ちよつぷり、じゃないでしょう。

ローズ 金城さんとは古い仲ですもの、ちよつぷり期限なしでお借りしてますの。

タマコ うちのパパは、今、病気なの。だから、あたしが、パパの替わりをしてるんです。

マリー あんたの事、小学校の時から大嫌いだった。

タマコ はあ？何よ、急に。小学校の話なんかどうでもいいじゃないの。

ローズ マリーったら、やめなさい。

マリー 母さんは黙っててよ。こいつに散々苛められてきたんだから、あたし。

タマコ あたしは苛めてないわよ、あんたのこと大嫌いだっただけよ。

マリー 金城タマコ、いい名前じゃないの。

タマコ やめてよ！フルネームで呼ぶの！

マリー 金城タマコ、金持ちの娘だからって、うちらのこと馬鹿にして、ゆかりの事だって苛めて、あんた最低よ。大人になっても最低。

ゆかり いいから、マリーやめなよ。

ローズ そうよ、マリー、やめなさい。

タマコ マリーあんたの方が最低よ。いつも同じ服のマリー（笑）ローズさん、今日は帰りますけど、また来ますから。

パパのこと騙してお金を借りてること、あたしは許しませんから。

タマコは去る。

マリー ロツペイちゃん、塩、塩持ってきて。

ロツペイ ほいきた！

ローズ やめなさい、塩だなんて縁起でもないわ。これから、お客様をお迎えるのよ、いい加減にして。

マリー 母さん、お金を借りてるんでしょ、あのタマコのデブ親父から。かあさんも最低よ。

ローズ あら、借りてないわ、貰ったのよ。

マリー なんて、貰うのよ。気持ち悪い。

ローズ くれるって言うんだから仕方ないわ、頂くだけよ。
マリイ 母さん、最低ね。

ゆかり ちよっと、もうよしなさいよ。

ロツペイ マリイちゃん、ローズさんに何て事言うんだよ。

マリイ みんなでそうやって、母さんの言いなりになればいいのよ。でも、あたしは違う。

あたしは、母さんの言いなりになんかならない。あたしは、あたしよ。

ローズ この子、最近変なのよ。

マリイ 変じゃない。ちゃんとあたしの話を聞いてよ、母さん。あなたはそうやって、いつつも逃げる。

あたしを見ようとしてない。ねえ、知ってる？あたしは、あなたの態度にずっと傷ついてきたの。ねえ、知ってる？

ローズ 知らないわ、あたし。それに、あなたが何に怒ってるのかも分からないわ。

マリイ いい加減にして！もう、うんざり。あたしは、あんたの小間使いでも人形でもないわ、

あんたの娘、マリイなの！

ローズ だとしたら、立派なストリップパーになってちょうだい。

マリイ え？

ローズ あたしが苦勞して、あなたをここまで育ててこれたのは、「ストリップパー」だったからよ。

あたしは、ストリップパーなの。

マリイ ストリッパーじゃなくても、あたしを育てられたんじゃないの？

ゆかり マリイ、ストリップパーで何が悪いの？なんで、そんな事をローズさんに言うのよ！

マリイ あたしは、母さんのようにはなれない。ストリップパーの才能なんかないの。

ラン マリイさん、そんな事言わないでください。

マリイ 母さん、あたし、ここを出て行きたいんです。

アコ マリイさん、そんな悲しいこと言わないで！

ローズ 出て行けるもんなら、出て行きなさい。

ロツペイ ローズさん、それは。

ローズ あなた、あたしを嫌いなんでしょ。

マリイ 嫌いです。

ローズ あたしは、ストリップパー。あたしは、あたしをさらけだし、観客の前に立つ。自分の感情に囚われず、その感情を振り切った先にお客様がいる。あたしの肌をあたしの身体をお客様が喜んで見つめている。

だから、あたしは喜んで、心を身体をさらけだす。そして、あたしの愛は、満たされる。

あたしは、ストリップパーなの。

マリイ あたしは、ストリップパーなんか、嫌い。そして、母さんの事も、嫌いなんです。

マリイは去る。

ゆかり マリイ、待って。

アコ マリイさん！

ゆかりとアコは後を追う。

ラン ローズさん、あたしは、ローズさんの踊り大好きです。いつか、あたしもローズさんのような

ストリッパーになりたいって思ってます。本当に。身寄りのない、あたしやアコを引き取ってくれて、そして、ここで、ストリッパーの修業までさせていただいて、あたしは、幸せです。ローズさんに感謝してます。

ローズ ありがとう、ラン。

ロツペイ おいらも、ローズさんに感謝してます。おいらは、ローズさんに助けてもらってる。

おいらの地獄をローズさんが救ってくれてるんです。マリーちゃん、きつと、どうかしてるんです。きつと、またいつものマリーちゃんに戻りますよ。

ラン そうです、ロツペイさんの言う通りだと思います。

ローズ 今夜も月が出るといいわね。

ラン はい。

ローズ あたしも、あの子が嫌い。

ロツペイ え？

ローズ あの子を愛してる、でも、どうしても、あの子が嫌い。あの子を通して見る、あたしが嫌い。

だけど、あたしも、あの女がきらい、あたしを捨てた、あの女が。

ロツペイ ローズさん？

ローズ あの子があたしを嫌いな、分かるの。

ラン そんな事ないです、だって、親子じゃないですか！

ローズ 子を愛せない母親もいるの、血が繋がった我が子でもね。

ラン あたしは、死んだ母さんが大好きでした。父さんも。

ローズ ランは、幸せね。

ラン はい、あたしは幸せです、とつても。いつも母さんと父さんがここにいるから。

ロツペイ さ、ローズさん、昼飯にしましょう。

ローズは頷く。ロツペイ、ローズ、ランは去る。

現実の時間

ハツキが登場する。

マリーの家

ハツキ あたしの名前はハツキと言います。今年18歳。大学1年生です。将来は、母のように福祉に携わる仕事をしたくって、福祉を専攻してます。あ、母は本当のお母さんじゃありません。

「月光園」で、あたしはマリー先生、いえ、母と出会ったんです。あたしは、小学生の時、両親が事故で亡くなって。祖母に育てられたのですが、祖母も亡くなって。「月光園」に来ました。

運命って、悲しく考えたらダメだと思うんです。悲しいよ、悲しいって思ってたなら、そういう運命になってしまってる、あ、これ、あたしの持論です。すいません(笑)

マリー やだ、ハツキちゃん、誰と話してるのよ。

ハツキ 今度、自分史の課題で発表があるから練習しているの。

マリー そうなんだ。(笑) 何かに取りつかれてるのかと思ったわよ。

ハツキ あたしは、母が大好きで、母が他の施設へ移るときに、もう、死にそうな位悲しくって。

そんなあたしを見兼ねて(笑) 独身なのにあたしを引き取ってくれたんです。話しはそれですが、あたしミュージカルが大好きなんです。(笑) とくにアニー。あ、アニーって知ってますか？

突然、キリコが登場して、アニーを歌う。

ハヅキ この歌を歌っているのが、あたしの大親友キリコです。彼女は、将来英語を生かした仕事がしたいと、某大学の英文科に在学中。彼女はきつと、世界で仕事をするとあたしは確信してます。彼女のご両親はドクター。いわゆるサラブレッド。だけど、彼女はドクターにはならず、彼女は自分の道を自分で切り開く強い意志を持って進んでる。キリコは、あたしの「誇り」なんです。でも、キリコは、少し変わっていて（笑）ミュージカルとホラー好き（笑）ミュージカルとホラーと才女（笑）

キリコ再び「アニー」を歌う。

ハヅキ あ、そこまで。まだまだ、お客様へ披露する歌になってないよ、キリコ！
キリコ でも、歌いたんだもの。

ハヅキ 二人だけの、ミュージカルごっこで（笑）

キリコ じゃ、あたしアニー！♪（歌うアニー）

マリー うわうわ、もう少し練習してよ、キリコちゃん。（笑）

キリコ マリーさん、厳しい（笑）

マリー 果てしない旅よ、ミュージカルスターの道は（笑）

ハヅキ スパルタですね、お母さん（笑）

キリコ マリーさんの「月待ち町」での話し、また聞きたいな。

マリー えっ？また？

キリコ なんか不思議な町ですよ、行ってみたいな。

マリー 地図にも載っていないような小さな小さな町。

ハヅキ お母さんは、元ストリッパー。

キリコ ステキですよ。

マリー 何度も言うけど、あたしは、ストリッパーとしては失格だったの。全然だめ（笑）

マリー でもね、ゆかりや、アコ、ランがいてくれたから、あたしはあそこで生きられたの。でも、皆、...

ハヅキ お母さん。

20年前

アコ、ランが登場。

ロツペイが登場

ロツペイ「わが月待ち座のストリッパー見習い踊り子コンビが踊るフレッシュな舞をどうぞ、

お楽しみください！」

ラン、アコが登場し、音楽に合わせて踊る。

拍手の音

ロツペイ、ラン、アコは去る。

マリーがゆつくりと歩きます。踊ろうとして音楽が止まる。

マリー あたしは、母さんのようにはなれない。ううん、母さんのようにはなりたくない。

ハヅキ お母さん、大丈夫？

キリコ マリーさん、ごめんなさい、あたしがまた「月待ち町」の話が聞きたいなんて言っちゃったから。
マリー 大丈夫よ、キリコちゃん。あたしの問題なの。

キリコ でも、。とても苦しそうマリーさん。

ハヅキ キリコ、大丈夫だから、心配しないでね。

キリコ ごめんなさい。

マリー 謝らないで、ね。あたしはね、捨てたり失ったものが多すぎるの。捨てたことへの後悔、失くしたものの立ち切れない思い。でも、いつまでたっても、向き合うことができない、あたしの弱さが問題なのよ。逃げてばかりの人生。

ハヅキ お母さん、「月待ち町」に行こう。

マリー え？

ハヅキ 月待ち町へ行って、決着をつけなきゃいけないんじゃないかと、あたしは思う。

キリコ でも、月待ち町ってあるの？今も・・・。

マリー あるわ。名前こそ残ってないけど、でも、あの人はきつと、いるわ、いると思う。

ハヅキ あの人のって、ローズさん？

マリー そう。でも、月待ち町へは行けない、行けないのよ。

キリコ あの、。。。

マリー ん？

キリコ Tomorrowですよ、マリーさん。「明日」。明日は希望。希望を持てば、世界だって変えられるとあたしは、信じてます。

ハヅキ キリコ。

キリコ すいません、なんか持論言っちゃって。

マリー ありがと。キリコちゃん。

キリコ 逃げて、いいと思います。生きるために、逃げる。なんか、そんな気がします。

ハヅキ 流石、キリコ！（キリコに抱きつく）

キリコ やだ、ちょっと、やめて（笑）

ハヅキ （抱きついたまま）最初に出会ったときも、キリコはあたしにそう言ってくれた。

あたし、その言葉に救われたんだ。キリコ、愛してる！

キリコ ハヅキ。

マリー あたしも、いれて（笑）（二人に抱きつく）

3人は笑う。

ハヅキ あ、お母さん、あたしたちこれから約束があるから、出掛けてくるね！

キリコ あ、そうそう、忘れてた！

マリー あら、そう、じゃ、気をつけて行ってらっしゃい。

ハヅキ じゃ、お母さん、行ってきます。

キリコ じゃ、マリーさん、お邪魔しました。See you!

マリーは笑いながら手を振る。

マリー 心の隙間にあなたがふと甦る。捨てたもの失ったもの、そしてあたしの罪。あなたを責める心だけで生きていきたくはない。だけど、あたしはそんなに強くない。時にはあなたを責めて生きなければ、あたしは、抜け殻になってしまいます。

マリー去る

玄関のチャイムの音

圭が登場。

ハツキとキリコが登場。

ハツキ お邪魔します、先輩。

圭 来てくれて、サンキュー。

キリコ 圭さん、今晚は。

圭 今晚は。秘密会議にようこそ（笑）

キリコ 何ですか？秘密会議って。

ハツキ 父行方不明の原因を探る、なの。

キリコ え？お父さん行方不明なんですか？

ハツキ 圭先輩は、あたしの大学の先輩で、ミュージカルサークル「月」の部長をやってるんです。

圭先輩は、お母さんが5年前他界され、今はお父さんと二人暮らしなんです。

キリコも大学のサークルでミュージカル同好会に所属していて、圭先輩とは他校合流サークルとして知り合っただけです。

チャイムの音

星子が登場。

星子 ♪みんな、遅くなってごめんなさい♪

ハツキ あ、あたしの大学の友人、星子。サークルも一緒です。ちよつと変わってて（笑）彼女もミュージカルが好きで、そして、神社巡りとか、あと、日本の秘境巡りも好きで。（笑）

星子 ♪あたしのことですか？♪

ハツキ うざいわ♪

キリコ ほんと、いつもテンション高いね♪

星子 ♪なんですか？♪

圭 いちいち歌わなくていいから。

星子 え、皆ノリ悪くない？

ハツキ あんたのテンションが平均値超えてんの。

星子 ところで、今夜の秘密会議って、何ですか？先輩、とうとう恋でもしましたか？

ハツキ ないない、先輩は恋なんてしないよ。

圭 決めつけないでくれるかな。

キリコ え？圭さん、とうとう？恋デビュー？え？誰？大学の人？

圭 だから、違うってば！

ハツキ 先輩、男の人と付き合ったことあるんですか？

星子 てか、あんたも。

ハツキ あたしは、あるよ。

キリコ ええ？聞いてないよ、ハツキ。何、それ？

ハツキ やだ、あたしの話はいいじゃん。

圭 そう、そう、恋バナじゃなくて、ちよつと皆に相談したいことがあるんだ。

ハツキ そうでしたよね、先輩、すいません。

星子 ♪何ですか？♪

ハヅキ もう、しつこいから。

星子 縁結びの神社、ハヅキに紹介しようか。

ハヅキ だから、今日は先輩の相談秘密会議だから。恋バナはまた今度。

キリコ ♪恋バナ、聞きたいな。(ミュージカル調に)。

ハヅキ 狂ったか、キリコまでも！

圭 ね、あたしの話。

ハヅキ あ、すいません、先輩。で、お父さんの話ですよね。

星子 お父さん？お父さんがどうかしたんですか？

ハヅキ だから、これから先輩が話すから黙っててよ。星子、ほんとうるさい。

圭 ご乱心だよ。

星子 ご乱心？？

圭 そう、なんか狂っちゃったみたい。

秋山が登場

月を見つめる秋山

秋山 月を見ると、思い出す、ぽっかり浮かんだ月は俺の心をきつく握りしめ、心の奥底の

淡い記憶をよみがえらせる。

娘の圭が父を見ている。

秋山 淡い記憶、淡くて重い、あの人との記憶。。

圭 お父さん、大丈夫？

秋山 あっ！

圭 なんか、眩いてたね。

秋山 いや、いや、あのね、父さん詩人になりたかったんだよ。

圭 は？

秋山 いやいや、その、あ、歌手にね、その、。

圭 いいよ、わかった。

秋山 圭、父さんね、旅に出ようかと。

圭 は？唐突に何言ってるの。

秋山 そのな、人は必ず死ぬだろ、必ず。

圭 うん、そうだよ。お母さんだって、そうだし。

秋山 だから、後悔だけは残したくないって、父さん、そう思うんだ。

圭 後悔？

秋山 父さんはね、どうしても会いたい人がいるんだ。

圭 え？死んだお母さん？

傍らに置いていたリュックを背負う。

秋山 旅にでる。必ず帰って来る。

圭 え？待って、何処に行くの？

秋山 月待ち町へ。

圭 なに、月待ち町って。どこの町？

秋山 もう、地図には載ってない町なんだ。

圭 地図に載ってない町って？なんじゃ、頭大丈夫？

秋山 頭、むしろ普段よりしつかりしている、じゃ、圭、後は頼んだ。

圭 (リュックを引く張る) やだ、ちよっと、何？

秋山 止めるな、圭。必ず、帰ってくるから。

圭 ね、待って。変だよ、お父さん。会社のストレス？ね？話してよ。

秋山 月なんだ、月がそうしろって、父さんに。

圭 月って、夜空の月のこと？

秋山 そうだ。とにかく、今夜、旅立ちたいんだ。

圭 もう、変だよ、お父さん！

秋山 おまえも、人を好きになればきつと今の父さんのことを理解してくれるはずだ。

圭 恋なんて、そんな、あたしにはまだ分からないよ。

秋山 とにかく、もう、ダメなんだ、押さえられない。

圭 誰よ、その人。ねえ、誰に会いに行くのよ。

秋山 月待ち町のストリップパー。

圭 は？

秋山 じゃ、圭。行ってくる。あ、圭、学校はちゃんと行きなさいよ。それから、

歯もちゃんと、磨きなさい。それから、アイスばかり、食べてちゃだめだぞ。

圭 わかってるよ！

秋山 じゃ、圭！お父さん、行って来る！

秋山は去る。

圭 待って、ちよっと、ねえ、お父さん！（三人に向かって）どう、思う？狂っちゃってるでしょ。

ハツキ え？月待ち町って。

キリコ これは、一体どういうこと？ある種のホラーよね。

星子 (笑) 月を見て、狂っちゃったんですか？先輩のお父さん(笑) ホラーよりリアルにこわっ！

ハツキ 月待ち町ってさ。

キリコ (ハツキと目を合わせる) まじか。

圭 何、あんたら知ってるんの？月待ち町ってどこ。

ハツキ 知ってるというか、ねえ、キリコ。

キリコ うん。

星子 何何？あ、月待ち町って、そう言えば、「秘境クラブ」って本で、昔、記事読んだかもしれない。

圭 え？星子知ってるの？

星子 確か、月の時間で「目に見えない」人と会えるとかなんとか、そういう言い伝えがあるとか、。

キリコ やだ、ホラーじゃない！

ハツキ ちよっと、キリコ、変な所で反応しないでよ。

圭 どうしても、会いたい人って一体誰なんだろう。

星子 やっぱり、月を見て、狂っちゃったのかな。

ハツキ 先輩、名前は？

圭 月待ち町のストリッパーとだけしか、。

キリコ うわー、なんだかロマンチックだね！え？でも、月待ち町のストリッパーって。

ハヅキ うん。

圭 不倫でもしてたのかな、お父さん。でも、あの不器用なお父さんがまさか。

星子 その、まさかかって人が大胆なことするんですよ、先輩。

ハヅキ もう、余計なことを言わないでよ、星子！先輩、気にしない方がいいですよ。

ていうか、何で星子を呼んだんですか？話が脱線するだけじゃないですか。

圭 ほら、秘境とか知ってるから。あたし、お父さんが心配で。

ハヅキ まさか、その「月待ち町」に行くつもりですか？

圭 うん、そのつもり。だけど、。

ハヅキ だけど？

圭 一人じゃ、行けなくて、だから皆が良かったら、一緒に来てくれないかなって。

星子 その町、本当にあるんですか？

圭 だから、あなたにも調べてもらって、。

ハヅキ あたしも、行ってみたいです、その町へ。

圭 本当に？

キリコ あたしも行ってみたい、ミステリアスな町。

星子 じゃ、緻密な作戦会議をする前に、お腹が空いたのでセブンに買い出しに行きませんか？

もちろん、圭先輩の奢りで！

圭 なんて、あたしが奢るのよ！

ハヅキ じゃ、先輩、一人で行きます？月待ち町へ（笑）

キリコ そうだよ、圭さん。一人で行けるの？

圭 ああ、もう分かったよ、奢るよ！

星子 やったー、じゃ、まずはセブンへgo！

キリコ・ハヅキ はい。

四人は去る。

20時過ぎの月野町

秋山 わたしは何故か胸騒ぎを感じ、月待ち町から離れて隣の隣、月野町へとやってきた。

万歩計を持っていたら、わたしの人生初の歩数となる。自分の思考を整理するとはいえ、何故、

こんなにも歩いてしまったのだから。

電車の音 ミヅキが登場する。

秋山 何処に行くあてもなく一人、ただただ歩いてきた。月野町駅に辿り着いた。

そして、前方をふと見つめると、若い女性が駅の改札を出て来るところだった。

ミヅキは月を見上げる。

秋山 彼女は月を見つめていた。不思議とその横顔に堪らなく懐かしさを感じた、わたしだった。

秋山 圭、今はすまん、他の女性をみつめている。圭のことを忘れてるわけじゃないんだ。
許してくれ、圭！

ミヅキは秋山を見つめる。

秋山は、ふと視線を感じ、ミヅキを見つめる。

秋山 すいません、独り言でした。

ミヅキは笑う。

秋山 大きかったですよね、独り言にしては（笑）
ミヅキ はい（笑）

秋山 月を見ましたね。
ミヅキ はい、見てました。今夜も月が優しいなと思って。

秋山 女性は月が好きですよ。

ミヅキ 月は女性の象徴だと、思います。

秋山 この町の方ですか？わたしは、この町初めてなんです。

ミヅキ いえ、あたしもこの町には住んでません。どちらからいらしたんですか？

秋山 東京ってところからです。

ミヅキ 東京かあ、。あたしはまだ一度も東京には行ったことがないんです。

秋山 そうですか。どこのご出身なんですか？

ミヅキ テンテンとです。本当に生まれたところは知りません。

秋山 そうですか、テンテンと。

ミヅキ 長くいたのは、春山県というところの小さな町です。

秋山 春山県というところの「あすなる県」の隣の県になりますよね。

ミヅキ そうです。この前までは、この隣の町「月風町」に居たんです。

秋山 ああ、月待ち町の隣のまち、えっと。。。

ミヅキ 月風町です。

秋山 月風町ですね、この辺りは、全部月がつくから分からなくなっちゃいますね。ええっと、ここは、月野町、
で、あれ、隣は、えっと、なんか混乱してきたな、ははは。

ミヅキ 月待ち町に行ったこと、あるんですか？

秋山 はい、今日行ってきました、今じゃ、殆ど住んでいる人はいませんでした。

ミヅキ あたし、月待ち町に行きたいんです。でも、。

秋山 でも？

ミヅキ なんだか怖くて、なかなか行けないんです。

秋山 え？怖いって、その、何ですか？幽霊とか？

ミヅキ いえ、そんなんじゃないなくて、気持ちいです。

秋山 気持ち？

ミヅキ はい、気持ちです。

秋山 気持ち悪いの？大丈夫？

ミヅキ いえ、そうじゃなくて、あたし、。

秋山 これから、わたしと一緒に行きませんか？月待ち町へ。

ミヅキ え？これから？え？どうやって？

秋山 歩いてです。

ミヅキ え？でも、。

秋山 月風町まで電車で行って、そこから歩いて30分ぐらいかな。ええ、さっき歩いてきたから歩数も分かります。

ミヅキ だけど、。

秋山 大丈夫ですよ、あ、わたし、変なことはしませんから、安心してください。

ミヅキ 大丈夫ですよ（笑）

秋山 私には、娘がいます、あなた位のね。あ、これ、娘です。（スマホの待ち受け画面を見せる）

ミヅキ あ、見せてくれてありがとうございます。（笑）

秋山 わたしの我儘で、娘ひとり残し、人探しの旅をしてるんです。そう、巡礼の旅とでも申しましょうかね。

ミヅキ 巡礼？

秋山 巡礼は大袈裟ですね、ま、会えないとは分かっている人を探しているんです、わたしは。

ミヅキ 会えない人を探してるって？

秋山 意味不明ですよ。（笑）

ミヅキ あたしも、会えないかもしれない人を探してるんです。

秋山 そうですか、あなたも。

ミヅキ はい。

秋山 あの、御名前は？

ミヅキ ミヅキっていいです。

秋山 ミヅキさん、素敵な名前ですね。わたしは、秋山大祐っていいです。

ミヅキ 秋山さん、初めまして。

秋山 ミヅキさん、初めまして。

電車の音

秋山 じゃ、行きましようか。

ミヅキ はい。

電車の音

二人は去る。

同時刻の月待ち町

ローズの家 ロッペイとナミが登場

ロッペイ あれ？ローズさん、どこ行ったのかな？トイレかな？あ、ナミちゃん、カルタでもしようか。

ナミ え？カルタ？トランプではなくてカルタ？しかも、唐突すぎる。

ロッペイ カルタだけど。

ナミ それに子供扱いするのやめて貰えます？ロッペイさん。あたしは、もう、大人の女なんだから。

ロッペイ おじさんからしてみれば、ナミちゃんは、まだまだ子供だよ。

ナミ 子供じゃないですよ、あたし。

ロツペイ はい、はい。

ナミ ロツペイさん、あたしは女なんです。

ロツペイ はい。

ナミ 目をそらさないで。

ロツペイ え？

ナミ ロツペイさんは、生きてない、あたしにはそう感じるの。

ロツペイ 生きてますよ（笑）

ナミ 誤魔化さないで！

ロツペイ どうしたの、ナミちゃん。

ナミ ロツペイさんは、今だって、あたしを見てない。過去を見てる。そうでしょう？あたし、間違ってるかな？ロツペイさんもローズさんと同じなんだよ！今を生きてないの！

ナミは急にロツペイに抱きつく。

ナミ 動かないで、避けないで。

ロツペイは、動きを止める。

ナミ あたしのなかで、胸打つこの想い、あたしが初めて感じるこの想い。

（幽霊の）ゆかりが静かに登場

ナミ あたしを避けないで、あたしを認めてください。あなたを、今度はあたしが助けたいんです。

（ゆかりも）あなたを好きです。

ゆかり ロツペイちゃん、好きよ。

ゆかりは去る。

ロツペイ ゆかりちゃん！ゆかりちゃん！ゆかりちゃん！

ロツペイは、ナミをつき放し、ゆかりを探す。

ナミ ロツペイさん！

ロツペイ あ、ナミちゃん、ごめん。

ナミ あたしは、「ナミ」です。ナミなんです！

ナミは走って去る。

ロツペイ ナミちゃん！

ロツペイは去る。

20年前

秋山登場

マリーの声 秋山さん！

マリ― 秋山さん！待った？

秋山 あ、マリ―さん。すいません、ショーが終わったばかりなのに。あ、そんなに待ってません（笑）

マリ― 秋山さんって本当に面白い。

秋山 え？僕がですか？

マリ― 一緒にいると、ほっとします、あたし。

秋山 僕もです。

マリ― このまま、ずっと一緒に入られれば。でも、もうそろそろ、東京へ帰っちゃうんですものね。

秋山 研修がそろそろ終わりなんで。

マリ― 限られた時間だったから、あたしのことを好きになってくれたの？

秋山 え？

マリ― もし、あたしが東京でストリッパーをやっていたら、あたしのことを見つけてはくれなかったでしょうね。

秋山 そんなことないです、僕はきつと、見つけていると思います。なんちゃって（笑）

マリ― あたし、何故あの人から生まれて、何故こんなところで生きてるんだろう。

秋山 あなたが、ここに居ることがぼくにとつての奇跡なんです。

マリ― あたしを連れて行って下さい、東京へ。ここから、連れ出してください。

秋山 ダメです。

マリ― やっぱり、あたしの事、好きじゃないんですね。

秋山 そうじゃない、きちんとしたいんです、僕は。

マリ― 連れて逃げて下さい。

秋山 逃げちゃだめなんです。そんなの、本当じゃなくなる。

マリ― 本当じゃ、なくなるって？

秋山 ローズさんにきちんと、あなたを妻にしたいと、ぼくは言うつもりです。

マリ― え？

秋山 あ、言っちゃいましたね、ははは。

マリ― それって、まさか、。

秋山 いや、テレますね。

マリ― ちゃんと行って下さい、目を見て。

秋山 え？恥ずかしいじゃないですか、そんな。ははは。

マリ― 聞いてもいいですか？

秋山 え？

マリ― ストリッパーのあたしを、出会ったばかりのあたしを、愛せるものなんですか？

秋山 あなたを見た瞬間、月並みですが、愛してしまいました。ははは。

マリ― 笑いは、いりません。（笑）

秋山 すいません、恥ずかしくって、つい。僕は、一旦東京へ戻ります、だけど、必ずあなたを迎えにきます。

マリ― はい、信じます、秋山さんを。

秋山 東京へ帰って落ち着いたら必ずあなたを迎えにきます、勿論ラブレターも書きます、はは、ラブレター、

なんちゃって（笑）

マリ― はい。信じます。あたし、「愛」って言葉の意味が理解できなかった。だけど、今は、そう秋山さんと一緒にいたいってこの気持ち、この気持ちが生まれて初めて感じる「愛」ってことなのかもしれないって、そう思います。

タマコが登場。二人に気がつき、隠れる。

秋山 僕もマリイさんと一緒にいたい、おおお、すいません、愛を口にすることに慣れてなくて！

マリイ もう、秋山さん、本当に面白い（笑）

秋山 愛の言葉、勉強します。

マリイ 秋山さん、あの、、、。

秋山 何ですか、マリイさん。

マリイ いえ、あの、、、。もしかしたら、、、。

秋山 え？もしかして、僕を嫌いとか？言わないですよね、ハハハ。

マリイ あの、小さな。

秋山 小さな？はてな？なんですか？

マリイ 小さな、、、。

秋山 え？小さな？え？

マリイ あ、はつきりしたら、話します。

秋山 あ、え？はい、すいません、なんか、、、。

マリイ そんな、秋山さんが、あたし、好きです。

秋山 じゃ、近くまで送ります。遅くなるとローズさんに怒られますよね。

マリイ いいんです、あの人のことは。それより、未来の話がしたいです。そう、秋山さんの未来。

（20年前のローズ）

ローズが登場

秋山とマリイは話しながら去っていく。

ローズがイスに座る。

タマコが出てきて、去った二人の後を見つめる。

タマコ ローズさん、今晩は。遅くにごめんなさいね。

ローズ いいんです、あたし「月」を見てましたから。

タマコ 月ねえ、相変わらず暢気なことおっしゃってますね！

ローズ 月を見ていると落ち着くんです。神は、素敵なもの、プレゼントしてくれました。

あたしは、月になりたいわ。

タマコ なって見たら（笑）なれるかしら。でも、お金を返してもらわずに、月になっちゃうの困るわ（笑）

ローズ お金は、貰ってるんです、あなたのお父様から。

タマコ はいはい、今夜のところはそうしておきましょう。

ローズ やあね、金城さんの嘘つき（笑）

タマコ あの、マリイさんの事ですけど。

ローズ マリイ？

タマコ ほら、東京から来てる建設会社の下っ端（笑）あの男とデキてるみたい、

しかも、妊娠まで。まったく、マリイもやるわねえ。いいんですか？ローズさん。

ローズ まさか、妊娠なんて。そんな、タマコさん、冗談はよして下さい。

タマコ あら、冗談じゃないわよ、この耳でちゃんと聞いたんですから、この耳で。

ローズ あなたも人が悪いわ、盗み聞きするなんて。

タマコ 盗み聞きじゃ、ありません、聞こえたんんです。それに、あの二人がちよこちよこ会ってるの結構見てる。

んです。これ、あの下っ端の会社の人に聞いたんですけど、下っ端さんね、東京に婚約者がいるらしいですよ。なんでも家同士が決めたとか何だかドラマみたい（笑）

ローズ そうなんですか、じゃ、マリイは騙されてる、という事になりますね。

タマコ 向こうは、遊びつてとこじゃないですか？もう、東京へ帰る筈だし。子供、どうするんですか？
ローズ そんな、妊娠なんて。

ロツペイの声 前座の二人、今夜もフレッシュでよかったねえ。

タマコ じゃ、あたしはこれで。また来ますね。チャオ♪

タマコ去る 自転車の音

ロツペイ・ユカリ・ラン・アコ・マリイ登場

ロツペイ 今宵もフレッシュコンビ、頑張ったね、なかなか良かったよ。

ラン 良くないです、振りも間違っただし。

アコ フレッシュだけじゃ、ストリップパーにはなれません。

ラン あたしたちには、「色気」がない。

アコ 確かに、それは言える。

ラン もう、あんただってないでしょ（笑）

ローズ おつかれさま。

全員 おつかれさままでございます。

ロツペイ ローズさん、今夜も素晴らしい舞をありがとうございます。

ローズ そう？でも、このところ、お客さん一人しか入らないわね。今夜も、ほら、あのお客さん一人

だけ。なんだか、ぼんやりとした若者（笑）

マリイ ぼんやりって。お客さんに失礼じゃないですか。

ローズ あら、まともにお客さんを喜ばすことができない人が生意気な事を言うわね（笑）

マリイ すいません、でも。

ローズ マリイは、ストリップパーじゃないわね、気持ちの上でも。

マリイ すいません。

ローズ それに、何度も注意してるわよね、脱ぎだす時にマリイには、そうね、高揚感がないのよ。

ゆかり あたしにも言えることです、すいません、ローズさん。

ローズ たしかに、ゆかりもそうだけど、マリイよりは成長してるの。マリイには、お客さんに対する

「愛」が足りないの。

マリイ 愛、ですか。

ローズ そう、「愛」。視線、表情、指先、そして、この体。すべて、お客さんのために表現しなきゃなの。

マリイ 出来ません。

ローズ 何故、できないの？

マリイ お客さんに対する愛がないんです、あたしには。

ローズ あなたがさらけだしてないからよ。だから、お客さんもあなたに愛を与えてくれないの。

マリイ あたしの愛は、母さんとは違うんです。

ローズ あたしは、ローズよ。

マリイ そうでした、すいません。ローズさん、でも、本当の事なんです。ローズさんとあたしの向ける「愛」に相違があるんです。そして、どんなにローズさんが頑張っても、「月待ち座」は、お客さんが減ってるんです。時代が変わったんです、時代が。今日だって、お客さんは一人。

ローズ 話しをすり替えないで頂戴。

マリイ でも、事実なんです。

ローズ あたしを苛めたいのね。

ゆかり マリイ、ローズさんは疲れてるのよ。その話はまた。

マリイ ゆかりも分かっていることじゃないの。

ロツペイ マリイちゃん、今度話そう、その話は。

ローズ 都会の男から、何か吹き込まれてるんじゃないのかしらね。

マリイ え？

ローズ 何が「時代」ですか。

マリイ 母さんは、酷い。

ローズ 母さんって呼ばないで頂戴。

マリイ 母さんでしょ、あなたは、あたしの。

ローズ その目、ああ、嫌。あなたの父親そっくりね。あの、どうしようもない父親の目。

ゆかり ローズさん、今夜はお疲れですから、もう休んだほうがいいです。

マリイ こんな人の子供に生まれたくなかった。

ロツペイ マリイちゃん、そんな事言っちゃだめだ。

ゆかり マリイも疲れてるのよ、ね、そうよね。

ローズ 残酷さも、父親譲りね。

マリイ あなたに似たんですよ。

ローズ そうかも知れないわね。

マリイ あなたは、人を愛せない、そう、自分しか愛せない。

ローズ 罪ね。

マリイ そう、あなたは「罪」。

ローズ このまま、墓場まで、その「罪」とやらを背負っていくのね、あたしは。

マリイ そうして下さい。あたしは、出て行きます、ここから、あなたから。

ゆかり ちょっと待って、マリイ。

マリイ あたしは、ずっと愛されたかった。いつか、この人に愛される日が来るって、ずっと待ってた。だけど、そんな日は来ないの。そう、それが分かるのが怖かっただけなの。

だから、もう、あたしは、待たない。

マリイは去る。

ゆかり マリイ！（ローズに向かって）すいません、ちょっとマリイと話してきます。

ゆかりは去る。

ローズ （ラン、アコに向かって）二人とも、もういいから、休んで頂戴。

ラン はい、でも。

ローズ 早く、休みなさい。

ラン はい。

アコ あの、。

ローズ 何？

アコ お客さんが沢山来てくれるように、あたしたち頑張ります。

ローズ そう、ありがとう。

ラン あたしもです。ローズさんのストリップ、沢山のお客さんに見てもらいたいです。

ローズさんのストリップは、お客さんを救える、そう、救えると思うんです。

ローズ 嬉しいわ。あなたたち、立派なストリッパーになって頂戴。

ラン はい、ありがとうございます。

アコ はい、ローズさん、おやすみなさい。

二人は去る。

ロツペイ 大丈夫ですか？ローズさん。

ローズ え？あら、大丈夫よ。

ロツペイ マリーちゃんの気持ち、分からなくもなくて。

ローズ あたしが間違ってるのかしら。

ロツペイ いや、俺も自分の親父に憎しみを持つてるから。

ローズ ロクさんね。あの人もどうしようもないわね。

ロツペイ 人じゃないっすよね、あいつ。

ローズ 戻ってきてるのね、今。

ロツペイ はい。家で飲んだくれてます。

ローズ 帰らないで、ここにいなさい。一緒にいたら、ロツペイちゃん、また暴力を振るわれる。

ロツペイ もう、俺の方が力強いんで。

ローズ だめよ。

ロツペイ 親なのに。

ローズ あら、あたしも母親失格よ。

ロツペイ あいつとは違う、ローズさんは。俺、ローズさんがいなかったら、あいつのこと。。。

ローズ やめなさい。いい、ロツペイちゃんは、いい子。ロクさんが、ダメなの。だけどね、憎んでも

何もいい事はないの。だから、憎しみを愛に転化していくしかないの。

ロツペイ いや、オイラには難しいっす。

ローズ あたしも、「母」を憎んだの。どうしようもない人だったの。でも、結局、あたしも、

母と一緒にのね。あ！

ロツペイ え？

ローズ 今夜の月も綺麗ね。

ロツペイ (笑) 展開が、ローズさん (笑) はい、月が綺麗ですね。

ローズは立ち上がり、月を見つめる。

ローズ いつか、愛してくれる、いつか。あたしも、そう「いつか」って言葉を何度も心のなかで呟いて

いたわ。あの子のように。でも、あたしにもその「いつか」はやってこなかったわ。

ロツペイ なんか、分かります。オイラ、ゆかりちゃんと、結婚したいんです。

ローズ え？

ロツペイ オイラ、たぶん「愛」ってこういうことなんだって、ゆかりちゃんという、分かったんです。オイラゆかりちゃんと結婚したいっす！

ゆかりが登場

ロツペイ オイラ、家庭が欲しいんです！そして、ゆかりちゃんと俺の子が欲しい！

ゆかり え？

ロツペイ あれ？聞こえた？？

ゆかり うん、確か、、、。

ロツペイ あ、だめだめ、今は。

ローズ 馬鹿ねえ、ロツペイちゃん（笑）

ゆかり ありがとう、ロツペイちゃん。

ロツペイ いや、プロポーズはもつと演出しようと考えていたんで、、、。

ゆかり じゃ、今度、きちんとプロポーズしてください。

ロツペイ いやもう、湧き上がるこの想いは止められない、おいら！

ローズ あたしは、お邪魔ね。

ゆかり いえ、ローズさん、いてください。

ローズ いいの？

ゆかり はい。

ローズ 月夜の晩にプロポーズ、ステキね。ほら、頑張りなさい！

ゆかり もう、早く言っつてよ！

ロツペイ さあ、さあ。

ロツペイは深呼吸をする。

ロツペイ さあ、さあ、いらっしやい。月待ち座の月明かりのショー。

さあさあ、今宵はオイラのオイラの愛するゆかり嬢の（泣き出す）

ゆかりはロツペイに近づく。

ロツペイ オイラが愛する。

ゆかりはロツペイの手を取る。

二人は抱き合う。

ロツペイ オイラと結婚して、子供を産んでくださいあい！（泣きが入る）

ローズは拍手をする。

ゆかり ロツペイちゃん、ありがとう。

ゆかりは去る。

現在の時間のローズとロツペイに戻る

ロツペイ ゆかりちゃん。

ローズ ゆかりちゃん？

ロツペイ あんな事さえなかったら今頃。オイラあの時、死んでればよかったんだ。なんで、

オイラは生きてるんだらう。

ローズ 死んじゃったの？ゆかりちゃん。
ロツペイ 全部、忘れちゃってるんですね、ローズさん。全部。
ローズ 忘れちゃったことも忘れてるのかしら、あたし。
ロツペイ 忘れたくて、忘れちゃったんですね、ローズさん。でも、死ねないんなら、忘れられた方がいいのかもしれない。

ナミが登場

ナミ ロツペイさん、あの。

ロツペイ あ、ナミちゃん、さっきはごめんね。

ナミ ごめんなさい、あたし。でも、あたし、ロツペイさんを助けたくて。

ロツペイ ナミちゃん、ありがとう。

ナミ ロツペイさんを過去から今に連れ戻したいんです、あたし。

ロツペイ それは。

ローズ どうしたの？二人とも。

ナミ ローズさんの事も、連れ戻したいんです、ここに。

ローズ ここ？ここは何処かしら？（ローズは月を見る）

ナミ ローズさんの時間です。

ローズ 時間？チクタックチクタック（笑）

ナミ そう（笑）チクタックチクタック。

ロツペイ、ナミも月を見る。

秋山とミヅキ登場。二人も立ち止まり、月を見る。

マリイが登場

マリイ （月を見上げる）月の光が優しく、あたしを照らしてくれる。あたしは、その瞬間、あたしに戻る。

ローズ 誰なの？あたしが待っている人は。誰なんですか、あたしが待っている人は。

マリイ 母さん。

全員月を見る。

ロツペイとナミは（声をださず）ローズに話しかける。

マリイだけが残り月を見ている。

22時過ぎの月待ち町

秋山とミヅキが歩き出す。

秋山 たしか、この辺だったんですけどね。20年前の記憶を頼った、私を許してください。

ミヅキ 大丈夫です。

秋山 今、はっと気がついたのですが、もう、22時過ぎてたんですね！すみません、若い女性をこんな時間まで連れまわしてしまって。

ミヅキ いえ、あたしも月待ち町に来たかったんで。でも、なかなか勇気がなくて。
秋山 会いたい人は、この月待ち町にいるんですよね？

ミヅキ いえ、もういないとは思いません。

秋山 僕の会いたい人も、今はもう此処にはいないでしょうね。

ミヅキは、再び月を見上げる。そして、踊り出す。(ゆっくりと)

ミヅキは踊りをやめ、秋山に笑いかける。
マリーは去る。

ミヅキ 何故だか分からないんですけど、月を見ると踊りたくなるんです。

秋山 あ、あ、そうですか。

ミヅキ 体が勝手に動くんです。

秋山 あの人の。

ミヅキ はい？

秋山 いえ、何でもありません。あ！

ミヅキ え？

秋山 あそこに家が！行ってみましょう！もしかしたら、何か分かるかもしれません。

ミヅキ でも、こんな遅い時間に行ったら、失礼じゃないですか？

秋山 巧遅は拙速に如かず、ですよ。

ミヅキ わかりません。

秋山 はは。孫子作戦ですよ。

ミヅキ すいません、わかりません。

秋山 お勉強しましょうね、ははは。さ、いざ出陣！

ミヅキ でも。

秋山はもの凄い俊足でローズの家へと近づく。

秋山 たのもう！いや、間違った、いかん、興奮している、ここはひとまず落ち着かなければ。

ミヅキ 大丈夫ですか、秋山さん、物凄く汗が吹き出していますけど。

秋山 大丈夫です。なんか、興奮してしまっただけ。

ロッペイが出て来る。

ロッペイ 誰だ、こんな時間に。

秋山 あ！

ロッペイ あ！

椅子に座っているローズに気が着く秋山。

秋山 あ！

ロツペイ あんた、さっきの！

秋山 あ！

ミヅキ 秋山さん、大丈夫ですか！

ローズ どうしたの？ロツペイちゃん。

ロツペイ ローズさん、何でもないです。カラスの仕業です。

秋山 ローズさん？

ローズ どなた？

秋山 秋山です。

ローズは不思議そうに秋山の顔を見つめる。

ナミが登場

ナミ ロツペイさん、お客さんですか？（ミヅキを見る）あ！

ミヅキ あ！

ロツペイ え？

ナミ ミヅキちゃん？ミヅキちゃんよね？

ミヅキ ナミちゃん？

ナミ （ミヅキに抱きつく）うわー、よかった！

ミヅキ ナミちゃん、どうしてここに？

ナミ ロツペイさんに助けってもらって、ここでお世話になってるの。

ミヅキ そうなの、元気そうで良かった。じゃ、お店は辞められたんだね。

ナミ うん。ああ、でも、心配してたの。ミヅキちゃん、どうしてるかなって思ってた。でも、良かった無事で！

秋山 ああああ。

ミヅキ 秋山さん、大丈夫ですか？

ロツペイ ちよつと、あんた、大丈夫かよ。

秋山 ああああ。

ローズ お疲れなのかしらねえ。

秋山 マリーさんは？マリーさんは！

ロツペイ そんな人はここには居ません。

ローズ マリーさん？

ミヅキ マリーさん、。もしかして。あの！

ロツペイ 何ですか？

ミヅキ マリーさんって、この人ですか？

ナミ マリーさん？

ローズ ロツペイちゃん、何だか気分が悪くなってきたわ。

ロツペイ とにかく、あんたたち帰ってくれ。

ナミ あの、ミヅキちゃんをあたしの部屋に泊めてもいいですか？

ロツペイ でも。

ナミ ミヅキちゃん、行くところがないんです！あたしと一緒になんです！

ローズ 狭いところで良ければ、どうぞ。

ロツペイ いいんですか？

ローズ ええ、どうぞ。あたしは、先に休ませていただきますね。

ナミ ローズさん、ありがとうございます。

ミヅキ ローズさん、ありがとうございます。

ローズは去る。

秋山 あの、わたしは？

ロッペイ あんたは、ダメだ。

秋山 ですよね、あ！あの公園に野宿します！わたし、野宿を一回トライしてみたかったですよね。

ロッペイ お好きにどうぞ。

秋山 ロッペイさん、やっぱり、ロッペイさんだったんですね。そして、ローズさん。

ロッペイ マリーちゃんは、いないよ。20年前にここを出て行ったよ。

ミヅキ え？

ロッペイ とにかく、ローズさんには昔の記憶が何ひとつ残ってないからね。

秋山 何か、あったんですか？

ロッペイ あったも何も。とにかく、あんた気が済んだらとっと国へ帰んな。

秋山 はあ。

ナミ ミヅキちゃん、疲れたでしょ？今夜はもう遅いし、寝た方がいいよ。

ミヅキ ありがとうございます、ナミちゃん。

ナミ じゃ、ロッペイさん、お休みなさい。

ロッペイ おやすみ。

秋山 いい夢を見て下さいね。

ナミ (笑) はい、おじさん。

ミヅキ ありがとうございます、秋山さん。

ナミとミヅキは歩きだす。

ナミ あのおじさんに変なことされなかった？大丈夫？

秋山 わたしは潔癖です！

ロッペイ あのさ、それを言うなら潔白でしょ。

秋山 ああ、はははは。

ナミとミヅキは去る。

秋山 マリーさんは、元気なんでしょうか。

ロッペイ さあ。

秋山 やはり、ここにはいないんですね。

ロッペイ あんた、マリーちゃんを捨てたのに、会いたいなんてよく言えたもんだね。

秋山 捨ててないですよ！わたしが振られたんですよ！

ロッペイ あんたが振られた？

秋山 そうですね、私は彼女から手紙を貰ったんですよ、もう会えない、東京には行けないって。

ロッペイ マリーちゃんが、手紙を？

秋山　そうです。わたしも、それから何度も手紙を書いた。会おうとも思った。でも、返事も来ないし、仕事も忙しくなっちゃって。

ロッペイ　捨てたも同然だよ。

秋山　違う！ だけど、勇気が、そうわたしには勇気が足りなかったんです。

ロッペイ　もう、遅いでしょ。時間が経ち過ぎてるし、マリリーちゃんはここにはいない。

秋山　歳を重ねた今だからこそ、遅いなんて言葉はないんです。

ロッペイ　何が欲しいの、あんた。

秋山　え？

ロッペイ　マリリーちゃんと会って何が欲しいのよ、あんた。

秋山　あの人が生きていてくれること、それだけです。ただただ、それだけでいいんです。

ロッペイ　あの公園、夜遅くなるとイノシシが出るかもしれないから気をつけな。

秋山　え？ イノシシ？

ロッペイ　嘘だよ、じゃあな、気が済んだら東京に帰んな。

秋山　ありがとうございます、あの、。

ロッペイ　何？

秋山　良かったら、懐中電灯を貸していただけないでしょうか？ あ、無かったら、提灯とか。

ロッペイ　いや、提灯のほうが無いでしょう、どう考えても。

秋山　ははは、いや、何を言ってるんでしょうかね、わたし。

ロッペイ　それはこっちのセリフだよ。貸すから、もう、とっとと出て行ってくれ。

秋山　はい、すみません。

ロッペイと秋山は去る。

ローズが登場

イスに座り、月を見上げる。

ローズ　何だか、心がざわざわして眠れないの。

あたしのなかの「黒い」もの。それが、疼き始めてるのね、きつと。

うっすらと思いだす時があるの、あたしがしたこと、うっすらだけど。

ねえ、あたしは何をしたのかしら。

マリリーって、名前の人。マリリー、どこかで聞いた名前。その名前を聞くとここがざわざわするの。

ミヅキが登場

ミヅキ　あの、ちょっとだけいいですか？

ローズ　あなたは、えっと。

ミヅキ　ミヅキって言います。

ローズ　そうそう、さっきいらした方ね。

ミヅキ　あの、「月待ち町のストリップ・パー」って、ローズさんのことですか？

ローズ　そうだったような、そうじゃないような。ごめんなさい、よく分からないの。

ミヅキ　そうですか。

ローズ　あなたは、ストリップ・パーさんなの？

ミヅキ　いえ、あたしは。でも、ずっとストリップ・パーって言葉と寄りそってきたから。

ローズ　言葉？

ミヅキ はい、ずっと。だから、いつしかストリッパーになりたいって思うようになって。
ローズ まあ、ストリッパーに？

ミヅキ はい。

ローズ 月が今夜も綺麗ね。そうね、月を見ると、あたし、ストリッパーだったかもしれないって、

思い出すこともあるの。月の光を浴びるとね、こう皮膚からね、感覚が甦ってくるの。

不思議な感覚。

ミヅキはローズを見つめる。

ローズ (ミヅキに気がつき) 眠くなってきたわ。先に休ませていただくわね。おやすみなさい。

ミヅキ お休みなさい。

ミヅキは月をみつめる。そして、去る。

同刻のマリーの自宅

マリーとハヅキの声

ハヅキ ね、お母さん、聞いてよ。

マリー どうしたの、ハヅキ。なんだか興奮してるみたいだけど。

マリーとハヅキが話しながら登場

ハヅキ あのね、あたしたちね、「月待ち町」へ行ってる。

マリー え？

ハヅキ 圭先輩のお父さんが、月待ち町へ行くと言って、家を出てしまったんですって。それで、圭先輩がお父さんのことが心配で。

マリー 圭さんの名字は？

ハヅキ 秋山。

マリー 秋山さん。

ハヅキ そう。

マリー その秋山さんのお父さんが何故月待ち町へ？

ハヅキ 良く分からないんだけど、会いたい人がいるんだって、月待ち町に。

マリー 会いたい人？

ハヅキ そうみたい。お母さん、どうしたの？大丈夫？

マリー あたしの。

ハヅキ え？

マリー あたしの子。あの子の産声はあたしのこの「耳」にしっかりと残ってる。なのに、あの子はいない。

ハヅキ お母さん。

マリー 秋山さん。何故、今頃。何故なの？

ハヅキ え？お母さん、圭先輩のお父さんの事知ってるの？

20年前の時間

マリー 母さん、あたし、赤ちゃんができました。
この子を産みたいんです。秋山さんに婚約者がいても、秋山さんに捨てられたとしても、
この子を産みたいんです。お母さん、この子を産むまで、ここに置いてください。何でもします。
母さん、お願いします。

秋山、ゆかり、タマコが登場

タマコ あたしはローズに教えてあげたのよ。マリーは秋山さんに騙されてるって。

秋山 わたしは、この町を去るあの日、マリーさんと何故会えなかったのか、理由があったんです。

母が事故に遭ったと連絡が入り、わたしは慌てました。月待ち町まで行く時間もなかった。だから
宿の近くに住むタマコさんに手紙を託しました。本当に慌てていたんです、わたしは。

ゆかり 秋山さんに婚約者がいる、結婚はできない。でも、子供を産みたいと。あたしは、どうしていいのか、
分からなかった。だけど、子供を産むまでは、この町にとマリーを引き留めました。

タマコ 手紙？渡されました？？嘘、秋山さんからマリー宛ての手紙なんか受け取ってないわ。

マリー 母さん、あたしの話聞いてください！

秋山、ゆかり、タマコが去る。

ローズが登場

ローズ 聞いているわ、いつも。

マリー この子を産ませてください。

ローズ 親子ね、あたしたち。

マリー え？

ローズ 産んでも、その子は、あなたのようになるのよ。

マリー あたしのように？

ローズ あなたが、あたしに言ったように、その子も同じことを言うの。それでも、あなたは、
産みますか？その子を。

マリー 母さんのように、あたしは、ならない。

ローズ あたしは、その子を、あたしたちのようににはしたくないの。

マリー 何故、決めつけるの？それは、お母さんの思い込みよ。あたしは、母さんに振り向いて欲しかった。
ただ、それだけです。ストリッパーのローズではなくて、あたしのお母さんで居て欲しかっただけ
なんです。

ローズ あなたは、分かってないわ、マリー。

マリー 何をですか。

ローズ ストリッパーは女にしかできない仕事。そして、あなたを育てていくただけに、あたしは、
ストリッパーをしてたわけじゃない。あたしの為よ。

マリー だから、母になって欲しかったって言ってるんです。少なくとも、あたしは、この子には、
そんな思いはさせません。

ローズ あなたは、母にはなれない。

マリー なれます。

ローズ あなたは、ストリッパーのあたしを憎んでる。そして、ストリッパーという女の仕事を見下してるの。
マリー 子を産むことと、母さんが今いった事がどう繋がってるのよ。矛盾してる。

ローズ 覚悟。あなたに、そんな覚悟ができるかしらね。

マリイ 産みます、あたしは。

ローズ 何故、同じ道を歩むのかしらね。

マリイ あたしは母さんのようにはならない、なりません！

ハヅキ お母さん、大丈夫？ね？お母さん！

ローズは去る。

マリイの家

マリイはハヅキの声にはっとして、ハヅキを見つめる。

ハヅキ 大丈夫？

マリイ 大丈夫。

ハヅキ お母さん、話してくれてありがとう。

マリイ え？

ハヅキ 圭先輩のお父さんとのこと、お母さんのお母さんのこと、話してくれてありがとう。

マリイ あたしの子、死んじゃったの。

ハヅキ うん。

マリイ 母さんが言ったように、覚悟が出来てなかったから、神様が怒っちゃったのかしらね。

ハヅキ そんな事ないよ。

マリイ 知らず知らずのうちに、母さんを傷つけたのかもしれないわね。血の繋がった親子なのに。

ハヅキ あたしは、血が繋がってなくても、マリイさんのこと、お母さんのこと大好きよ。

マリイ ありがとう、ハヅキちゃん。あたし、あの子を死産して町を飛び出して東京へ辿り着いた。

そして施設で働いて、あなたに出逢えたこと、神様に感謝してるのよ。

ハヅキ あたしも、感謝してます。

マリイ あたしね、不思議とどこかであの子が生きてるんじゃないかって思いが断ち切れなくて。

だから、何故か施設を転々として、働いてたのね。生きてる筈なのに。だけど、この耳には

残っているの、あの子の産声が。あたしには聞こえたの。

ハヅキ つらかったね、お母さん。

マリイ 秋山さんの事も。だけど、諦めるしかなかったの。東京にいるあの人の元へ確かに行く事ができ

なかったのよ、あの時は。

ハヅキ うん。

マリイ 怖かったの、だから、本当のこと、知りたくなかったのね。ああ、臆病モノだわね、あたしは。

婚約者がいる秋山さんに自分からお別れの手紙を書いたわ。その後も秋山さんからは手紙はきて

いたけど読まなかった、読めなかったの。

ハヅキ ね、お母さん。月待ち町へ行こう。あたしたちと一緒に。

マリイ え？

ハヅキ 会ったほうがいいよ、秋山さんと。

マリイ 無理よ。

ハヅキ ローズさんにも会ったほうがいいと思う。

マリイ 母さんは生きてるか、もう、分からないわ。

ハヅキ だから、確かめに行こうよ。ね、時が来たんだと、あたしは思う。

マリー 時がきた？

ハヅキ そうだよ、時が来たんだもの。これは必然なんだよ、偶然じゃなくて。

マリー そうよね、まさか、こんな近くにあの人がいたなんて。

ハヅキ 信じようよ、明日を。それを教えてくれたのは、マリーさん、あなたですよ。

マリー ハヅキちゃん、やだ、もう、泣けてくじゃない(笑) 愛してるよ

ハヅキ あたしも(笑)

マリー キリコちゃんと言ったわよね、生きるために人は逃げるって。でも、いつか向き合うために逃げるのね、きっと。

二人は抱き合う。

(翌日の夕方)

ハヅキ 圭先輩、キリコ、星子とあたしで「月待ち町大作戦」を立ち上げ、マリーさん、あ、お母さんを月待ち町

へ連れて行くべく、計画を練りました。最初は、その町の存在を知らなかったので「秘境」に詳しい星子が役に立つと思っていましたがお母さんが町を知ってるので、彼女は必要ないかなと思っただんですけど(笑)

星子 ずるい、あたしも連れてってよ！

ハヅキ うるさいので連れて行くことにしました。圭先輩にはマリーさんと秋山さんの話はしてません。

奥手の圭さんにはちょっと刺激が強いかと思って

圭 奥手って、誰の事言ってるの？

ハヅキ キリコには勿論、マリーさんと秋山さんの話はしました。彼女は、冷静だし頭のいい子だから、

理解してくれました。キリコがいないと、あたしも不安だし。

キリコ ぅきつと大丈夫(ミュージカル調)

ハヅキ 前向きになれます、キリコがいると(笑)

マリーを見つめるハヅキ。

ハヅキ マリーさんは、始終緊張しているようで落ち着かないようです。

星子 ね、何で歩かなきゃいけないのよ、月待ち町に電車が通ってないなんて、信じられない。

ハヅキ あんた「秘境」オタクなんですよ、こういって沢山あるんですよ、日本には。

星子 そうだけだよ、でもさ。

マリー ごめんね、星子ちゃん。

キリコ マリーさんが、謝ることないですよ。

圭 そうだよ、文句を言うならついて来なくても良かったのに。

星子 そんな先輩まで、優しくしてくださいよ！

圭 そんな余裕はないの。

キリコ そうだよ、星子、我儘言わないの。

星子 だって。

ハヅキ お母さん、この辺で少し休もうか。

マリー そうね、あ、じゃあ、ここに座りましょう。(ビニールシートを広げる)

星子 流石ですね。

圭 流石です。

マリ― この辺は何にもないから（笑）皆、座ってちょっと休みましょう。

カラスの鳴き声

マリ― もう、夕暮れね。

ハヅキ テンションだけで、来たのはいいけれど、この町にホテルなんかなかったね。

キリコ はは、予想以上のゴーストタウンだったね。

マリ― あたしも、何も考えてなかった。

ハヅキ お母さんはいいの。それどころじゃないんだから。

キリコ そうですよ、マリ―さんは自分の事だけを考えていてください。

マリ― ありがとう。

星子 何なら、ここで野宿したっていいんですからね！

圭 急に元気になってない？あんな。

星子 はい！切り替え早いんで、あたし！

カラスの鳴き声

マリ― なんだか、ほっとするわ。

ハヅキ 思い出す？昔を？

マリ― そうね。

20年前のゆかり、アコ、ランが登場

ラン また、失敗しちゃった〜、こう肩を見せるだけなのに、全然できてない〜

アコ そうだよ、そこは見せ場なのに。ランはどうして、できないのかね〜

ラン あんただって、出来てないでしょ。

アコ ほら、（やってみせる）上手く出来てるでしょ。

ラン でも、なんかゾクゾクしない。

アコ あんたもよ。

ゆかり 二人とも、まだまだよ（笑）

ラン そんな落ち込むこと言わないでくださいよ。ゆかり姉さん。

ゆかり 好きな人の事を考えるのよ。

ラン 好きな人？

アコ あ、ロッペイさんのことですか（笑）

ラン ちょっと、直球すぎるよ。

ゆかり そうね、ロッペイちゃんの事、考えてるかな。

ラン いいな、ゆかり姉さん。

アコ あたしも好きな人が欲しいな。

ラン そこは、あたしも、あんたに同感。あたしたちも好きな人と出逢えるのかな。

ゆかり 出逢えるよ。

アコ でも、ストリッパーのあたしたちにはなかなか、ね。
ラン うん。

ゆかり あたしは、ストリッパーになれて良かったと思ってるよ。
ラン あたしも、ストリッパーになりたいです。

アコ あたしも。
ゆかり ストリッパーって、女にしか出来ない仕事。あたしは、ローズさんのショーを観て、ストリッパーになりたいって心底思ったわ。この町でしか生きられない、あたしたちは、生きてく為だけに、ストリッパーになったんじゃない。世間がストリッパーって仕事をどうみようが、あたしは、この仕事に誇りを持つてる。

ラン 姉さんが言いたいこと、よくわかりました。あたしたちはどこかで、普通じゃないって思ってるんですよ、アコもあたしも。でも、ストリッパーって、女性の仕事なんですよ。

女性に出来ない仕事。

ゆかり そうだよ。だから、恋だっただって、できるんだよ。

アコ いつか、立派なストリッパーになって、東京に行きたい。

ゆかり うん、行けるよ、きつと。

ラン あたしも。

ゆかり ローズさんのように唯一無二のストリッパーにならなきゃだね。

ラン はい。ああ、でも、それは難しいです。(笑)

アコ ローズさんにはなれないです。

ゆかり 女であることを、まず、あたしたちは好きになることなのかもね。

ラン いよっ、ゆかり姉さんの名言！

ゆかり ふざけないの(笑)真面目に言ってるんだから！

3人は笑う。

マリー ゆかり、ラン、アコ。

ハヅキ お母さん。

(幽霊) ゆかり、ラン、アコはマリーを見つめる。

マリー ごめんね、皆。あたしだけ、あたしだけが。

ハヅキ お母さん、大丈夫だから、ね、自分を責めないで。

キリコはゆかりたちの方を見る。

キリコ なんか、感じる。

圭 え？

星子 何よ。

キリコ 誰かが、こっちを見ているような。

ハヅキ やだ、キリコ。いくらホラー好きって言ってもさ、霊感はないよね。

キリコ 寒い。

ゆかりたちは、去る。

キリコ あ、いなくなったかも。

ハヅキ ホント、やめて、キリコ、怒るよ。

キリコ 冗談じゃないってば、本当に感じたんだから。

星子 ほら、この月待ち町って言い伝えがあったじゃない。月夜のある時間に目に見えないものが見えるとか。

圭 まだ、月は出てないよ。

星子 あ、そうか、でも。

秋山登場（頭にタオルを巻いている）

星子が秋山に気がつく。

星子 何かいる。

圭 え？

星子 見ちゃダメ！

ハヅキ え？何？

キリコ また、幽霊かな。

マリー あ！

ハヅキ どうしたの？

秋山は、ラジオ体操的な動きをする。

圭 あの動き。

マリー もしかして。

圭 お父さん！？

マリー 秋山さん？

秋山は圭に気づく。

秋山はいきなり逃げようとする。

圭 お父さん、何で逃げんのよ！

秋山 あ、野宿生活をしていたせいで、何だか、反応がおかしくなっちゃった。

ハヅキ お母さん、大丈夫？

マリーは頷く

秋山はマリーを見つめる。

秋山 マ、マ、マ、

圭 お父さん、どうしたの？

秋山 マ、マ、マ

マリイ 秋山さん？

秋山 あ、あ、あ、(倒れる。)

マリイ 秋山さん？

圭 お父さん？ちよっと、どうしたの??

キリコ お水、お水飲ませて！

圭 お水って、でも、倒れちゃってんのに？

星子 やだ、大丈夫？

圭は父を抱き上げて、顔をたたく。

圭 お父さん、ねえ、お父さんってば！しっかりしてよ。

秋山 (目を開ける) マリーさん！

圭 え？何？

秋山 (起き上がって、よろよろとマリイに近づく) マリーちゃん、マリイちゃん！

圭 しゃんって、なってるよ、お父さん。

マリイ (笑) 秋山さん。

秋山 あわわわ、マリイちゃん。

ハヅキ ちよっと、怖いかも。

キリコ うん、ちよっと。

星子 ゾンビみたい。(笑)

圭 もしかして、お父さんが会いたかった人って、マリイさんのこと？

秋山 しょう、しょうなんでぶ。

星子 そう、そうなんです、じゃない？

ハヅキ そうだね、うん。

圭 ええ？どういうこと？ね、ハヅキ知ってたの？

ハヅキ ちよっと、話があるから、ね、キリコ、星子もちよっと来て！

圭 でも。

ハヅキ 先輩、お願いします、ちよっとこっちに。

ハヅキ、圭、星子、キリコは去る。

マリイは秋山に近づく。

マリイ 秋山さん、おひさしぶりです。

秋山 マリーさん。

二人はしばらく見つめ合う。

マリイ 今、会えて、純粹に嬉しい。

秋山 夢、じゃないんですね。

マリイ 夢じゃないですね。

秋山 お会いしたかった、です。

マリー お互いに老けましたね（笑）

秋山 マリーさんは、あの頃とちっとも変わってません。

マリー 嘘、老けましたよ。20年ですもの。

秋山 あなたの美しさは、年月など関係ない。

マリー やだ、何ですか、それ（笑）あたし、妖怪ですか？

秋山 わたしのストコドッコイ！

マリー は？

秋山 相変わらず、気の利いた事が言えない自分を戒めました（笑）

マリー いろんな思いがあったのに、いろんな事を聞きたかったのに。でも、今、秋山さんに会った

瞬間、全部、消えちゃった。おかしい（笑）

秋山 わたしは、あなたからお別れの手紙を貰った時、。。。でも、その時の自分には、今の自分と違って行動を起こせなかった。今なら、分かることが、20年前のわたしには分からなかった、出来なかつたんです。

でも、これだけは言わせてください。わたしは、ずっと、あなたの事を忘れた日はなかつたってことだけは。

マリー あたしも、怖かつたんです。本当は、あなたを追いかけてでも、会って真実を確かめれば良かったって。でも、あたしもそう、あの時はそれが出来なかつた。あの時の自分の思い込みで。

秋山 人生のなかでやっかいなのが、思い込みだと、今は分かります。だから、わたしは自分の人生を諦めたくなくて、あなたを探そうと決意しました。この歳になったからこそ、勇気が湧いてきたんです。恥をかいたって何したって、自分だけには嘘をつきたくないと。

マリー 秋山さん、あたしと出会った時、婚約者がいたんですね。

秋山 はいませんけど。

マリー あたしは、母からそう聞きました。

秋山 え？いせんよ。わたしは、母が事故に遭ってしまつて、それで、タマコさんに手紙を渡したんです。落ち着いたら、必ず迎えに行くと。でも、あなたからは別れの手紙が。そしてわたしの手紙にも返事はなく、それで、わたしは、嫌われたんだと。

マリー え？タマコ？手紙って。もう、やだ、笑っちゃうほど何かの悪戯であたしたち真実を見失ってしまったんですね。もう、何なの、笑ってしまいます。

秋山 そうですね、笑ってしまいます。はははって、いや、わたしは怒りますよ！あの時、どんなに辛かったことか！でも、自分に負けて、あなたに会いに行けなかつた自分が悪いんですよ。しかし、これは、何という運命なんだ！

マリー 本当に、笑っちゃうぐらいの運命ですよ、あたしたち！

二人は笑う。そして、見つめ合う。

マリー でも、また会えたから、いいんです。

秋山 マリーさん。

圭 お父さん！

ハヅキ 圭先輩待って！

星子 圭先輩！

キリコ 圭さん、落ち着いて。

秋山 圭。許してくれ、お父さんは、、、。

圭 お父さん、許す。きっと、亡くなったお母さんも許してくれてるよ。

秋山 え？

圭 ボケボケのお父さんに、こんなに素敵な恋物語が合ったとは。お父さん、素敵だよ。

秋山 圭。

圭 マリーさん、大人の恋の行方は、あたしには分かりません。あたしは、まだ本当に人を好きになったことがないから。

マリー 圭さん。

圭 でも、お父さんが、あんなに必死になるところを今まで見たことがなかったから、だから、素敵だなんて。

星子 いい事言う、圭先輩。

ハヅキ 圭先輩、凄くいい。

キリコ love will save the world

秋山 (愛の歌なら何でもいい) 歌う。

圭 ちょっと、お父さん、それは、どうかな。

秋山はマリーに手を差し出し、歌う。

皆で手を取り合って歌い、踊る。

ロツペイ、ナミ、ミヅキが店の準備のために登場

ロツペイ え？

ナミ 何だろう、楽しそう。

ミヅキ ホント。

ロツペイ うわっ、あのおっさん。

ナミ あ、ホントだ、踊ってる、愉快に(笑)

ミヅキ 秋山さんって、本当に面白い(笑)

ロツペイ かなり盛り上がってるな(笑)

ナミ 確かに！あたしも一緒に踊って来よう！ミヅキちゃんも行こう！(ミヅキの手を引っ張る)

ミヅキ え？あたしはいいよ。

ナミ そんな事言わない！(手を引っ張る) あたしたちも一緒に踊らせてください！

秋山 あ、どうぞ！ミヅキさんも、どうぞ！

皆、手を取り合って踊る。

ナミはロツペイの元に走り寄る。

ナミ ロツペイさんも、踊りましょ。

ロツペイ オイラはいいよ。

ナミ 早く、早く！(ロツペイを引っ張る)

ロツペイはナミと踊る。

ロツペイ（マリーに気がつく）

マリーもロツペイに気がつく。

マリー ロツペイちゃん。

皆は二人に気がづかず、踊っている。

ロツペイ マリーちゃん。

マリー ロツペイちゃん。

ロツペイ なんて、ここに、なんでここに居るんだよ！

皆、踊りをやめる。

マリー 会いに、会いに、来たの。

ロツペイ 誰にだよ。

マリー 母さんに。

ロツペイ 帰れよ、帰れ！

マリー 母さんは、母さんは元気なの？

ロツペイ 元気？元気じゃなかったら、どうするんだよ！ゆかりちゃんやアコ、ランたちのように死んでるってか！知ってる訳ないよな、あれから20年、音沙汰無しだもんな。

マリー 知ってた、知ってたよ。

ロツペイ じゃ、なんで帰って来なかったんだ、月待ち座も何もかもなくなって、ローズさんもおかしくなって、オイラたちがどんな生活を送ってきたか知ってるのかよ！

マリー 行けなかったのよ、どうしても！

ロツペイ ゆかりやアコやランが、あの火事で、どんな、、、。

マリー やめて、お願いだから、やめて！

ハヅキ お願ひします、マリーさんを、お母さんを責めないでください！

ロツペイ 娘？

ハヅキ マリーさんは、あたしの里親なんです。あたしのいた施設の先生で、あたしを引き取ってくれたんです。死んだお子さんの代わりに。

秋山 死んだ子の代わりに？

ロツペイ へえ、自分の罪を忘れるためにか。

ハヅキ 酷い、酷いよ。

秋山 何が合ったか分かりませんが、マリーさんを責めないでいてあげてください。

ロツペイ あんたも、本当に馬鹿な男だよな。

秋山 え？

ロツペイ 本当に気がつかなかったのかよ。やることやって、捨てたくせに。今さら、のこのこ会いに来て。あんたら二人、偽善者だな。

圭 ちよっと、お父さんは、偽善者なんかじゃない。失礼だよ、おっさん。

ロツペイ あんた、誰？

圭 娘です。

ロツペイ ヘえ、他の女にも手を出してたんだ、あんた、やるね。

ナミ ロツペイさん、やめてください。

ロツペイ やめないよ、オイラは。

ナミ ロツペイさん、人を憎んでも何も始まらないよ。

星子 そうだよ、おっさん、みっともない。

キリコ デリカシーがなさすぎる、おじさん。

ロツペイ 人が人を責めるときはね、理由があるんだよ、お嬢ちゃん。もっと大人になれば、分かるよ。

星子 今だって、分かります！

ロツペイ 理由だよ。

ナミ ロツペイさん、ずっと暗い憎しみの世界に住んでる。出てこようとしな。でも、恨んでも

憎んでも死んだ人はもう戻らないんだよ。

ロツペイ 黙ってくれ、もう、いいから黙っててくれ！

ナミ あたしは黙らないよ、ロツペイさん。あたしの声はロツペイさんには届かないの？

あの日ロツペイさんはあたしの声を聞いてくれたじゃない。だから、今度はあたしが聞いてあげる。

ロツペイさんの声を聞いてあげるよ。だから、戻って来てよ、過去から！暗い世界から、ここに戻っ

てきて、ロツペイさん！

ロツペイ 今なんか知らない、オイラにはそんなもの知らない。知らないんだよ！

ロツペイは、走り去る。

ナミ ロツペイさん！

ミヅキがナミを抱き寄せる。

ミヅキ 大丈夫だから、ね、ナミちゃん、大丈夫だよ。

秋山 みなさん、少し落ち着きましよう。

秋山は、皆をビニールシートへ誘う。

圭 お父さん、徹底的に暢気すぎる。

秋山 心が乱れてる時こそ、まず落ち着くんだよ。さ、ナミさんも座って。

ミヅキがナミを座らせる。

星子 何なの、あの入。

キリコ あの人も何か抱えているものがあるんだよ、とてつもなく大きな苦しみ。

マリー やっぱり、あたしは、幸せになっちゃいけないんだわ。ゆかり、ラン、アコ、ごめんなさい。

ハヅキ お母さん、過去に逃げないで。お母さんは、今、ここにいるんだよ。過去に逃げちゃだめだよ。

マリー あたしがこの町を出て行く日、火事があったのよ。燃えさかる火、ああ、熱い、熱いわ。

マリ― あたしは、どうして、ゆかりと一緒に行かなかったんだろう。

秋山 マリ―さん。いいんだよ、もう。いいんだよ。

マリ― 逃げた、あたしは。自分に負けて逃げたんだわ。あたしは、身勝手な女なんです。だから、あの子もあたしの元には来てくれなかったのよ。

秋山 あの子って？

マリ― あたしの子。

秋山 まさか。その子は、。わ、わたしの？ええっ！

マリ―は頷く。

圭 ええっ???

マリ― こんな弱い母親の元に生まれなくなかったんだわ、あの子は。

母さんを咎める権利なんて、あたしにはない。

あの人の歪んだ心を理解せず、責めて愛を乞うだけ。

ミヅキ 「月待ち町のストリップパー」

マリ― え？あなた、母の事を知ってるの？

ミヅキ いえ、あ、あたしは、ただ。

マリ― 何？

ミヅキ あたし、ストリップパーになりたくって。ずっと、憧れてたんです。

ナミ ミヅキは、お母さんを探してるんです。

マリ― え？お母さんを？

ミヅキ 生まれた時、何かの事情で施設に預けられて育ったんです、あたし。そこから、いろんなところへテンテンと。

ハヅキ あ、じゃあ、あたしと一緒にだね。

ミヅキ え？

ハヅキ あたしは、両親が事故で亡くなって、お祖母ちゃんに育てられたの。だけど、お祖母ちゃんも

亡くなっちゃって。でも、親戚の家ではあたしを育てる余裕がなかったの。だから、あたしは施設で育ったの。

あなたも寂しかったでしょ。あたしには、分かる、その痛み。

ミヅキ あなたも。

ハヅキ あたし、ハヅキって言います。

ミヅキ あたしは、ミヅキって言います。

キリコ うわ、二人とも名前に月がつくんだね、不思議だね。あたしは、キリコって言います、よろしくね、ミヅキさん。

星子 おお、月に星。あたしたちってロマンチック、あたしは星子って言います。

圭 あたしは、圭って言います、よろしくね、ミヅキさん。

ナミ あたしは、ナミって言います。家出して、スナックとかいろいろ水商売してました！

ミヅキとは月風町のスナックで働いている時に会いました。

ミヅキがナンバー1！であたしがナンバー2（笑）オバサンばっかの店だったから、

苛められたよね、ミヅキ。若さの罪ってだけでね（笑）

ミヅキ でも、ナミちゃん、気が強いから、よく助けてもらったの。
ナミ 寂しんぼうだけどね（笑）

マリーは笑う。

ハヅキ お母さんが、笑った。よしよし、元気になったか？

マリー そうね。

秋山 ははは、若いっていいですね。

マリー ええ、ほんとに。あ、さっきの話だけど、ストリッパーになりたいって。

ミヅキ はい。

秋山 会えない人を探してるって言ってたよね、確か。

ミヅキ 生きてるか、分からないんですけど、母を探してます。

圭 え？お父さん、何で知ってるの？エスパーかよ、君は（笑）

秋山 ああ、茫然と歩いていた時に出会ったんだよね、月野町で。それで、ローズさんの家を発見して。

マリー 母のところには？

秋山 はい、そうなんです。

ミヅキ あたしの母への手掛かりはひとつ。

ハヅキ 手掛かり？

ミヅキ 「月待ち町のストリッパー」って、これです。（ミヅキはポケットから小さな巾着をだし、

紙を取り出し、ハヅキに渡す）

ハヅキ 美月（ミヅキ）「月待ち町のストリッパー」

星子 何それ？呪文？

圭 ちょっと、空気読みなよ、星子！

マリー ちょっと、見せて。

秋山 どういう事なんでしょうかね。

マリー どういう事？

ミヅキ あたし、これをお守りとして、ずっと持っていました。あたしの名前はあった、捨てられたんじゃないって。

マリー ああ（マリーは、急に走り出す）

ハヅキ お母さん、どうしたの？（マリーを追いかける）

マリー ああ、助けて、気が変になりそう！

秋山 いやいや、待って下さい！マリーさん。

圭 ちょっと、お父さん！

星子 え、どうしたんですか？みんな走っちゃって。あ、あたしも走らなきゃかな。

キリコ なんだか、大変なことが起きてる、どうしよう、冷静なあたしまで気が変になりそう！

ナミ みなさん、大丈夫ですか？

ミヅキ あたし、何か悪いことしましたか？なんか、すいません！

皆、走り出す。

マリー （笑い出す）これが、これが本当なら。

秋山 え？今度は何ですか？

マリー 本当に神様は意地悪すぎます！

マリーはミツキを見つめる。

マリー こんにちは。

ミツキ こんにちは。

マリー こんにちは！

ミツキ こんにちは！

マリー こんな事って、こんな事って。

ミツキ こんにちは。

二人は見つめ合う。

圭 もしかしたら、お父さんも「こんにちは」って言わなきゃなんじゃない？

秋山 ああ、そうか。こんにちは！

マリー こんにちは！

圭 あたしも、こんにちは、だよ、多分。

ハヅキ そうだね（笑）

皆笑う。

秋山 遅くなったけど、こんにちは！

ミツキ こんにちは！

3人は見つめ合う。ハヅキ、圭、星子、ナミも近づく。

3人は笑いだす。全員笑い出す。

マリー 秋山さん、母に会います。連れて行ってください。

秋山 はい。

マリーは歩き出す。

秋山 あのう、。

マリー え？

秋山 鈍感で本当にすいませんでした。すいませんじゃ、済まされないうけど。

マリー 秋山さん、時間ってこういう時に改めて必要なんだなって分かりました。あたしたちには、20年って時間が必要だったんです。

秋山 そうですね。20年経ちましたが、今、迎えに来ました。

マリー 秋山さん。

マリー ミツキちゃん。

ミツキ はい。

マリーはミツキに抱きつく。

ミツキ 柔らかいんだ、ふわふわする。

マリイ ミヅキちゃん。

ミヅキ 誰もいない夜、月を見て、いつも思ってた。もし、あたしにお母さんがいて、お母さんに甘えて、こっやって抱きしめてもらったら、きつと、きつと。

マリイ うん。

ミヅキ きつと、ふわふわした気持になるんじゃないかって。

マリイ どうして、母さんは、どうして、こんな酷いことを。

ミヅキ でも、見つけられるようにしてくれました。

マリイ (頷く)

秋山 行きましょう、マリイさん。

マリイ はい。

全員、秋山について行く。去る。

ローズが登場 椅子に座る。

ロツペイが登場。ローズを見つめる。

ローズ ロツペイちゃん、今夜は少し寒い夜ね。(ローズはロツペイを見つめる)

ローズ どうしたの？顔色が悪いわよ。

ロツペイ ローズさん、ここから出て行きましょう、今、すぐに。

ローズ やだ、何を言ってるの？

ロツペイ ね、もう、ここを出て行きましょう、その方がいい。

ローズ いやいや、いやよ。ロツペイちゃんの意地悪。

ロツペイ 行きましょう、ローズさん。

ローズ 嫌よ、何するの、やめて！

ロツペイ だめです、ここにいちや、だめだ！

ローズ 嫌よ、嫌！

ローズは逃げようとする。

ロツペイ だめなんですよ、ローズさん！

ローズ 火事だわ、火事なんだわ！

ロツペイ 火事？

ローズは飛び出す。

ローズ 火事よ！火事よ！みんな逃げるの。

ロツペイ ローズさん！

ローズ あの人よ、あの人よ、火を！

ロツペイ 何を言ってるんですか！

秋山、マリイ、ミヅキ、ハヅキ、星子、キリコ、ナミ、圭が登場

ゆかり、ラン、アコは去る

秋山たちは、叫ぶローズに気がつく。

ローズは、秋山たちに気づく。

ローズ 助けて、お願い、助けて！

マリー 母さん。

ローズ 助けて、火事よ、火事！あの人が火を、家に火を！

ロツペイ 違う、オイラじゃない！

ローズ あたしは、あたしは、罪を犯したの、罪を犯したんだわ、きっと！

マリー 母さん！

ローズ あたしは、あたしは、子供を、子供を！

マリー そうよ、あなたは、あなたは罪を犯したのよ！

ローズ あたしの罪、あたしの罪！

マリー あなたは、あたしに死産だと言った、嘘をついたのよ。そうよ、あたしも馬鹿だった。

ローズ 気が変になって、何も考えられなかった。あなたの作った嘘に、あたしは、あたしは！

ローズ 知らない、あなたなんか知らない。

マリー とぼけないで！あたしは、あなたの娘、マリーよ！

ローズ 知らないの、ねえ、助けて、ロツペイちゃん（ロツペイに抱きつく）

ロツペイ 本当に覚えてないんだ。あの火事の日から。ローズさんは病気なんだ。

マリー 自分の犯した罪から逃げるためにでしょ。子を愛せない、そして、この子をこの子をあたしから奪ったあなたの罪！

ローズは座りこむ。

ローズ あたしだって、愛されなかった。愛してほしかったのに。優しく抱きしめてくれるだけで、それだけで良かった。だから、分らないの、どうしていいか。分らないの。

ミヅキがローズに近づく。そして、ローズを抱きしめる。

ローズ あたしも、母さんの愛が欲しかったの。

ミヅキ 許してあげてください。

ハヅキ お母さん、許してあげて。

マリー 出来ないわ、許すなんて、あたしには出来ない。

ローズ あたし、何を話してたのかしら。泣いてるの、あなたは？

マリー 泣いてなんかいない、怒りよ。ただ、ただ怒りしかない。だけど、こんな酷いことをした、あなたなのに、あなたを見ると、やっぱり、あなたに愛されたかったんだって、どうしようもなくて思うの。

お母さん、あたしを産んだんでしょ、あたしを産んでくれたのよね？お母さん。

ローズ 産みたかったの。あたし、あなたを。

マリー お母さん。

ローズ でも、ストリップパーだったの、あたしは。だから、あなたの子は、あたしたちのようになってはいけなくて欲しくないって、そう、思ったの。だとしても、あたしはパンドラの箱を開けちゃいけないの。罪はいつもあたしたちの傍に存在してる事を知っていたのに、あたしはパンドラの箱を開けてしまったの。

ミヅキはローズに抱きつく。

ローズ ごめんなさい。

ロツペイは去ろうとする。

ナミ ロツペイさん！

ロツペイ ナミちゃん、オイラ、ゆかりちゃんのところに行く。

ナミ ゆかりさんって、ちょっと待ってください、ロツペイさん！

ゆかりが登場する。

ロツペイ オイラのせいなんだ、火事は。オイラが親父をほっといたから、あんな事に。

ナミ ロツペイさん、大丈夫？

ロツペイ オイラの親父はどうしようもないアル中で。でも、ローズさんがいつも助けてくれて。

あの日、ローズさんは珍しくお客さんと隣町まで出かけて。オイラ、オヤジと大喧嘩して、親父にも殴られて、オイラも親父のこと殴ってしまった。情けないよな、あんな親父の息子だなんて。

53

マリー ロツペイちゃん、もう、いいよ、いいんだよ。

ロツペイ でもさ、ゆかりちゃんに会ってオイラ、本当に幸せだった。本当に結婚したかった。

オイラみたいなどうしようもない男を好きになってくれたゆかりちゃんが、大好きだった。でも、オイラの親父が酔っぱらって火を付けたから、あいつ頭がおかしくなっていたんだよ、でもさ、やっちゃいけないよ、火なんかつけちゃだめだよ、親父！

マリー え？

ロツペイ あいつは、それで刑務所に入ってすぐ、あっけなく死んでったよ。なんなんだよ、人の人生ってさ。なんで、あいつは生まれてきたんだよ。クソみたいな人生を送るために生まれてきたのかよ、そんなのありかよ。

マリー あんたは、恋したじゃない、生まれたから、ゆかりと愛し合えたんじゃないの。

ナミ そうです、そして、あたしを助けてくれた。

ロツペイ マリーちゃん、ごめんな。「月待ち座」もローズさんも、ゆかりもランもアコも守れなくて。

マリー ごめん、あたし、本当にごめんなさい。

ロツペイ ゆかりちゃん、オイラ、ゆかりちゃんに会いたい。

キリコ います、あなたの傍に！あたし、感じるんです、嘘じゃありません。

ハツキ ちよっと、キリコ、やめて。

キリコ いるんです、あなたの傍に。

ゆかり ロツペイちゃん。

ロツペイ オイラは、会いたいんだ、ゆかりちゃんに。

ナミ ロッペイさん、過去に戻っちゃだめ、ロッペイさん！
ゆかり 生きて、生きてね、ロッペイちゃん。
ロッペイ ゆかりちゃん！

ナミはロッペイの手を取る。
ゆかりは去る。

キリコ あ！

秋山 さあ、さあ、いらっしやい。月待ち座のトップ・ローズが踊ります月明かりのショー。

さあさあ、見なきゃ損、他では見られないこの月待ち町だけのストリップショー！

圭 お父さん、いきなり何してんのよ！

秋山 ロッペイさんの真似です。ロッペイさん、あの頃、輝いていた。「月待ち座」を愛してるんだなと思いました。もう一度、やりましょう、「月待ち座」。

マリー 秋山さん？

秋山 マリーさん、わたしは「月待ち座」が好きだった。ストリップパーを見るのは生まれて初めてだった。マリーさんや、ゆかりさん、そしてローズさんのショーを見た時、わたしは、涙がでましてね。

女性って、なんて素晴らしいんだろう、なんて美しいんだろうって。ストリップパーって仕事はこんなにも愛に溢れてるものなのかと。その思いは、今でもここにまだしっかりと刻まれてます。

マリー あたしは、ストリップパーという仕事を愛せてなかった。ゆかりや、ランやアコのように。

そして、母さんには。

秋山 やりましょう、今夜だけの「月待ち座」。もう少しすれば、きっと月も顔をだしてくれるでしょう。

圭 お父さん、自分で何を言ってるか、分かってんの？

自動車の音

タマコが登場

タマコはマリーたちを見つめる。

タマコ あら、お久しぶり、マリー来てたんだ。何十年ぶりかしら？不審者がいるって聞いたから、

来てみたら、マリーだったのね。

マリー タマコ、何しに来たのよ。

タマコ 何しに来たのって、こっちのセリフよ。人の敷地で勝手なことしないでちょうだいな。

ロッペイ あんたに用はない、帰んな。

タマコ ったく、誰のおかげでここにいられると思ってんの。パパのお陰でしょ。ホント、図々しい人たちね。そもそも、あんたの父親の放火のせいで、この月待ち町も無くなっちゃったんじゃないの。放火のせいで。

マリー いい加減にしてよ。あんたって本当に性格悪いよね。

タマコ あんた、母親捨てて逃げて、良くそんな事言えるわね。パパがいなかったら、こんなオバサン、とっくに死んでたわよ。ったく、うちのパパも何でこんな人を好きになるのかしらね。

秋山 あんた、帰ってくれないかな。汚い空気吸いたくない。

タマコ 何、このおっさん。

秋山 20年前、この町に来ていた秋山です。あんたに、手紙を託した、秋山です。

タマコ は？何、それ？覚えてないわ（笑）

マリー あんたも、人から愛されなかった気の毒な女なんだよね。
タマコ 何よ。

マリー だから、子供の時から意地悪だったのよ。カネシロタマコ！
タマコ ふん！あんたたちみたいなの、下品な商売してる親の子を苛めて何が悪いの。

秋山 だからって、やっていい事と悪い事があるだろう。

タマコ あたしは、何にも知らないわ。あ、婚約者がいるってローズさんには伝えたの思いだしたわ。

マリー ああ、あり得ない、この女！

ハヅキ 何なの？腹立つおばさん！

星子 ホント、絵に書いたような毒ババア（笑）

タマコ ちょっと、何なのよ！

秋山 とにかく、ここから出て行ってもらえませんか。これからショーが始まるんで。

タマコ なのよ、ショーって。

ロッセイ とにかく、ここから、出て行ってくれ、権力や金で人を自分の思い通りにしようってのが、

間違いなんだ。

秋山 あんたね、そんなだと、いつかきつと罰があたる。あんたみたいな人間がいたら、この国は腐っちまう！

ハヅキ 帰れ！

ナミ 帰れ！

星子 帰れ！

キリコ go out！

圭 帰れ！

マリー あんたを可哀想だと思う、あたしは。だから、許すわ。

タマコ 何言ってるの？あんた。

マリー 許してあげるわ。

タマコ あたしはあんたに許されなくてもいいわよ。それより、マリー、あんたの母さんをここに住めないようにしてあげるわ。それでもいいのね、マリー。

ミヅキ 帰ってください。

タマコ 何なのよ、この子！分かったわよ、今夜は帰るけど、絶対にここから追い出してやるわ！

転びそうになりながら、去るタマコ

全員 笑う。

マリー 悲しい人。

秋山 本当ですね、愛を知らないで育ててしまったんですね。

ロッセイ 最後に、「月待ち座」やりませんか。

ナミ ロッセイさん！

マリー でも、ストリップパーはいないわよ。

秋山 わたしが、やります！やってみたかったです。（いきなり、脱ぎ出す秋山）

ロッセイ いやいや、ちょっと、おじさん、やめてくださいよ。

マリー 秋山さん、お願い、よして（笑）

秋山 そうですか、残念です。

圭 お父さん、頼むよ。

秋山 ははは。

ミツキ あ、月が顔を出してきました。

(観客へ向かって)

ロツペイさあ、さあ、いらっしやい。月待ち座のトップ・ローズが踊ります月明かりのショー。

さあさあ、見なきゃ損、他では見られないこの月待ち町だけのストリップショー！

ローズは眠っている。

秋山 月の明かりに照らされて踊る、伝説のストリップパー、その名は、その名は！

マリイ 月待ち町のストリップパー、ローズ！

ハヅキたちは拍手する。

ローズは眠り続けている。

マリイ 母さん、母さん、あたしは、あなたを許すわ。

マリイはゆっくりローズに近寄る。

マリイ あなたは、あたしの母さんだから。

ローズはゆっくり目を開ける。

そして、マリイを見つめ、手を差し伸べる。

ローズ あたしは、月待ち町のストリップパー

ゆかり、アコ、ランも登場

ローズ、マリイ以外は、歓声をあげながら全員来ていた服を脱ぎ捨て、スリップ姿になり自由に踊る。

ローズ あたしは「月待ち町のストリップパー」

月の光がローズとマリイを照らす。ローズは1人、前へと進む。

ローズ (観客に向かって) 本日は、ようこそ「月待ち座」へ。本日もお客様から、「愛」が伝わってきます。ありがとうございます、あたしは、お客様の「愛」に支えられているからこそストリップパーでいられるんです。

そして「愛」に気づかせてください、ありがとうございます「ございます」。

あたしは、月待ち町のストリップパー。

マリイ 母さん。

ローズはマリーを見つめる。

ゆっくりと後を向き、歩きだす。

マリー 母さん、母さん。母さん、行かないで、母さん！

振り向き、マリーに微笑む。

ゆかり、アコ、ランがローズを見つめている。

ローズ 行かないやね。

マリー お母さん、お母さん！

ミヅキ 名前を、名前をありがとうございます。

ローズはゆかりたちと去る。

ミヅキはマリーを見つめる。

ミヅキ お母さん。

マリーは頷く。

ミヅキ お母さん！お母さん！

マリー（ミヅキの頬に触る）あたしの子、あたしの子なのね。

ミヅキ 頷く。

マリー あなたに会うために、あたしは生まれてきたのね。

マリーはハヅキに気が付く。

マリー ハヅキちゃん、月待ち町へ連れてきてくれて、ありがとう。

ハヅキ お母さん、良かったね。

キリコ 「月」との不思議な時間。

星子 うん。

マリー お母さん。

ロッセイ 月待ち座の女王ストリッパー、その名はその名は「ローズ」！

暗転

観客の拍手の音

ロッセイ 今宵お送りいたしますのは、ローズに捧げるマリーとミヅキの親子競演、みなさん、拍手でお迎え下さい！「月待ち座」の新たなスター、マリーとミヅキ！

秋山、ハツキ、キリコ、圭、星子、ナミが拍手する。

マリーとミツキが手を繋いで立っている。

そして、ゆっくりと観客の方へ進む。

観客の拍手の音

おしまい

登場人物

ローズ 「月待ち座」オーナー・トップストリッパー マリーの母

マリー ローズの娘 元「月待ち座」のストリッパー

秋山大祐 設計士 マリーの元恋人 現在は妻をなくし一人娘圭と暮らしている

ロツペイ 「月待ち座」元番頭 現在はローズの世話をしている

ゆかり 「月待ち座」ストリッパー マリーの親友でもありロツペイの恋人

ミヅキ 母を探しているストリッパーを夢見る少女

ハヅキ マリーの養女 大学生 ミュージカル同好会「月」所属

ナミ 家出をし現在はローズたちと暮らしている。ミヅキのバイト仲間でもあり友人

ラン 「月待ち座」ストリッパー見習い。

アコ 「月待ち座」ストリッパー見習い。

圭 ミュージカル同好会「月」所属。ハヅキの先輩。父は秋山大祐

キリコ ハヅキの親友 ミュージカル・ホラー好きの才女 ミュージカル同好会「月」所属

星子 ハヅキの友人 ミュージカル同好会「月」所属 神社・秘境巡りが趣味

カネシロタマコ 月待ち町権力者の娘 マリーの同級生